

2017 年春季年会

# 年会プログラム

於 九州大学

2017 年 3 月 15 日 (水) ~ 3 月 18 日 (土)

日本天文学会

# 日本天文学会 2017 年春季年会プログラム

期 日 2017年3月15日(水)～3月18日(土)

場 所 九州大学伊都キャンパス(福岡県福岡市)

電 話 090-4387-6893 <使用期間 2017年3月14日(火)～3月18日(土)>

月日	会場	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19												
3月15日 (水)	A	受付						S. 活動銀河核	特別 セッション	天文教育 フォーラム		理事会												
	B							P2. 星・惑星																
	C							R. 銀 河																
	D							Q. 星 間 現 象																
	E							T. 銀 河 団																
	F							W2. コンパクト天体																
	G							K. 超新星爆発																
	H							U. 宇 宙 論																
	I							V3. 観測機器																
3月16日 (木)	A	受付	S. 活動銀河核	P2. 星・惑星	R. 銀 河	Q. 星 間 現 象	T. 銀 河 団	W2. コンパクト天体/Y. 教育他	K. 超新星爆発	U. 宇 宙 論	V3. 観測機器	昼 休 み (代議員総会)	ポスター	S. 活動銀河核	P2. 星・惑星	M. 太 陽	Q. 星 間 現 象	V2. 観測機器	Y. 教 育 ・ 他	P1. 星・惑星	W1. コンパクト天体	V3. 観測機器	懇親会	
	B																							
	C																							
	D																							
	E																							
	F																							
	G																							
	H																							
	I																							
3月17日 (金)	A	受付	Z1. 超新星残骸	P2. 星・惑星/N. 恒星	M. 太 陽	Q. 星 間 現 象	V2. 観測機器	X. 銀河形成	P1. 星・惑星	W1. コンパクト天体	V3/V1. 観測機器	昼 休 み	ポスター	Z1. 超新星残骸	N. 恒 星	M. 太 陽	Q. 星 間 現 象	V2. 観測機器	X. 銀河形成	P1. 星・惑星	W1. コンパクト天体	V1. 観測機器	会員 全体集会	受賞記念講演
	B																							
	C																							
	D																							
	E																							
	F																							
	G																							
	H																							
	I																							
3月18日 (土)	A	受付	Z1. 超新星残骸	N. 恒 星	M. 太 陽	L. 太 陽 系	V2. 観測機器	X. 銀河形成	P1. 星・惑星	W1. コンパクト天体	V1. 観測機器	昼 休 み	ポスター	特別 セッション										
	B																							
	C																							
	D																							
	E																							
	F																							
	G																							
	H																							
	I																							
	J																							

A 会場 : センター 2 号館 4F

B 会場 : センター 2 号館 4F

C 会場 : センター 2 号館 3F

D 会場 : センター 2 号館 3F

E 会場 : センター 2 号館 3F

F 会場 : センター 2 号館 3F

G 会場 : センター 2 号館 2F

H 会場 : センター 2 号館 2F

I 会場 : センター 2 号館 2F

J 会場 : 椎木講堂

受 付 : センター 2 号館 1F

ポスター会場 : 椎木講堂

展示コーナー : センター 2 号館

懇 親 会 : 川端商店街

## ◎講演数

講演数：合計 652

(口頭講演 (a)：458、ポスター講演 (b)：154、ポスター講演 (c)：40)

## ◎参加登録について (参加者は、当日必ず参加登録をしてください。)

2011年秋季年会より、講演登録費は、講演申込時にお支払いいただく事になっています。

2016年秋季年会より、通常セッションにおける講演は会員に限られています。

## ○参加費用

	会 員	非会員
参 加 費	3,000 円 (不課税)	5,000 円 (消費税込み)
(但し講演ありの場合、参加費は無料)		
講演登録費	3,000 円 (不課税)	10,000 円 (消費税込み、企画セッション) (1 講演につき)
(但し事前支払がない場合は、会員 4,000 円、非会員 11,000 円)		
年会予稿集	2,000 円 (消費税込み)	2,000 円 (消費税込み) (購入希望者のみ)

## ○参加登録受付場所：受付

○参加登録受付時間：3月15日 11:00～16:00

3月16日 09:00～16:00

3月17日 09:00～16:00

3月18日 09:00～13:30

※参加費は、会期中に受付にて忘れずにご納付ください。

※参加費用支払い時に渡される領収書は、再発行はできませんので、大切に保管してください。

※講演登録者は、講演申し込み後にキャンセル等しても、講演登録費の返金はいたしません。

※懇親会に参加される方は、隣の懇親会専用の受付にて懇親会の参加費をお支払いください。

## ◎講演に関する注意

1. 口頭発表は9会場で並行して行います。口頭講演(添字 a)は、口頭発表9分、質疑応答3分です。ポスター講演(添字 b)は、口頭発表3分、3講演で12分を割り当て、座長の判断で質疑応答を行います。

※時間厳守：講演制限時間を超過した場合は、直ちに降壇していただきますので、講演者の皆様は制限時間を厳守できるよう特に万全の準備をお願いします。

2. ポスター発表(添字 b)、(添字 c)は、3月15日の12:00から3月18日の13:30までポスター会場の指定された場所に掲示できます。終了後は速やかに撤去してください。ポスターサイズは縦180cm×横90cmです。
3. 講演には液晶プロジェクターをご使用ください。液晶プロジェクターは、セッション開始前にPCの接続を確認してください。講演時間は、直前の講演者が降壇した時点から計り始めます。迅速に講演が始められるよう、次の講演者は前の講演中にPCを接続しておいてください。

## ◎会期中の行事

月日	時間	会場	行事名
3月15日 (水)	15:15～16:15	A会場	PASJ 特別セッション
	16:30～18:00	A会場	天文教育フォーラム
3月16日 (木)	18:30～	川端商店街	懇親会
3月17日 (金)	15:45～16:45	A会場	会員全体集会
	16:45～18:15	A会場	受賞記念講演
3月18日 (土)	13:30～14:30	A会場	X線天文衛星計画特別セッション

## ◎会合一覧表

月日	時間	会場	会合名	一般参加可否
3月15日 (水)	18:15～19:15	会議室	理事会	D
3月16日 (木)	11:30～12:30	A会場	代議員総会	D
	11:30～12:30	B会場	理論天文学宇宙物理学懇談会報告会	C
	11:30～12:30	C会場	太陽研究者連絡会・運営委員会	D
	11:30～12:30	D会場	CAP2018@福岡キックオフ・ミーティング	B
	11:30～12:30	E会場	宇宙電波懇談会総会	C
	11:30～12:30	G会場	内地留学奨学金選考委員会	D
	11:30～12:30	I会場	高エネルギー宇宙物理連絡会報告会	B
3月17日 (金)	11:30～12:30	A会場	太陽研究者連絡会・報告会	C
	11:30～12:30	B会場	国立天文台の運用する天文シミュレーション用計算機のリプレースに関する状況報告	B
	11:30～12:30	E会場	天文・天体物理若手の会総会	C
	11:30～12:30	G会場	SKA-Japan 定期会合	A
	11:30～12:30	H会場	光学赤外線天文連絡会総会	C
3月18日 (土)	11:30～12:30	A会場	女性天文学研究者の会ランチミーティング	A

※一般参加可否の説明（オープン化の程度）

- A: 誰でも大歓迎で是非来てほしい
- B: 興味を持った人には広く門戸を開いている
- C: 関係グループ向けのものだが部外者も特に拒みはしない
- D: 関係者のみにクローズした非公開の会合

◎「PASJ 論文執筆セミナー」 - これであなたも PASJ に投稿したくなる -

日 時：2017年3月15日(水) 15:15～16:15

場 所：A会場

概 要：より多くの皆様に PASJ で研究成果を発表していただけるよう、本セミナーを開催します。まず、特に若手の方を念頭に置き、論文執筆の指導経験の豊富な理化学研究所の牧島一夫さんに「受理される英文論文の書き方」について講演していただきます。続いて、多くの論文を PASJ に発表している東京大学の戸谷友則さんに、PASJ に投稿する意義を話していただきます。最後に、PASJ を選ぶメリットをご紹介します。PASJ には、日本語による「投稿の手引き」、英文校閲サービス、優れた論文の表彰(欧文研究報告論文賞)、実は迅速な掲載など、多くの魅力があります。皆様、特に若手の方のご来場をお待ちしています。

プログラム：1. 受理される英文論文の書き方(牧島一夫)  
2. 私が PASJ に投稿する理由(戸谷友則)  
3. PASJ を選ぶメリット(嶋作一大)

世 話 人：嶋作一大(PASJ 編集長)、嶺重慎(PASJ 編集顧問幹事)

◎天文教育フォーラム：「ジュニアセッションのこれまでとこれから～20回記念に向けて」

共催：天文教育普及研究会

日 時：2017年3月15日(水) 16:30～18:00

場 所：A会場

概 要：日本天文学会2000年春季年会よりスタートした天文学会のジュニアセッションも、2017年春季年会での開催で19回目となり、2018年には20回の節目を迎えることとなりました。この間、多くの中学生・高校生がジュニアセッションの舞台上で研究成果を発表し、ときにはプロ顔負けの素晴らしい成果も発表されてきました。また、海外からも多くの発表者が参加するようになり、国内外を問わず天文好き中高生の交流の場としても大きな役割を担ってきています。しかし、近年では参加者数も増え、発表申し込み件数も100件に届く勢いであり、会場・予算・時間の確保などが難しくなってきているのも事実です。

そこで、今回の天文教育フォーラムでは、今後のジュニアセッションのあり方について、広く学会員間で意見を交換する場を提供したいと思います。20回の節目を前に、ジュニアセッションに関して開かれた場で総括し、今後の運営に関する議論をできればと考えています。従来より生徒の活動に関心をお持ちの方はもちろんのこと、いままでジュニアセッションにご参加頂いたことのない方も、これを機にジュニアセッションのあり方や、学会員としての関わり方についてご一考頂ければ幸いです。

話題提供：吉川真(JAXA)「ジュニアセッションの経緯と現状」

内海洋介(広島大学)「ジュニアセッションの意義～OBOGの立場から」

西村昌能(元洛東高校)「ジュニアセッションの意義～指導者の立場から」

松川宏(青山学院大学)「他学会のジュニアセッション実施例」

費 用：天文教育フォーラムのみの参加費は不要です。天文学会年会受付で、その旨お伝えください。

実行委員：鴈野重之、亀谷和久、中申孝志、金光理、大山真満、木村かおる

## ◎ X線天文衛星計画の概要 - 「ひとみ」と「X線天文衛星代替機」

日 時：2017年3月18日（土）13：30～14：30

場 所：A会場

概 要：2016年2月17日に打ち上げられたX線天文衛星ASTRO-H（ひとみ）は、立ち上げ運用と初期観測の途中、3月26日に通信が途絶し運用を断念するに至った。その後、JAXAによる事故調査がおこなわれ、原因の究明とともに、こうした事故を起こさないためのプロジェクト体制の改革の方策が示された。一方で「ひとみ」が得た初期観測データは、精力的に解析され、その一部はすでに公表されている。10月からは、「ひとみ」プロジェクト終了審査が行われ、計画全体について詳細な報告と審査が行われている。日米のX線天文コミュニティとJAXA、およびNASAは、「ひとみ」がもたらすと期待されていた新しいX線観測の一部を早急に回復するために、再製作するX線マイクロカロリメータを中心とし、2020年度打ち上げを目指した「X線天文衛星代替機」の計画を進めようとしている。本特別セッションでは、「ひとみ」の成果、異常事象のまとめと、代替機の計画概要について、関係者からの報告を中心に紹介する。

プログラム：

- |                            |                  |
|----------------------------|------------------|
| 1. 「ASTRO-Hの終了と得られた教訓について」 | 久保田孝 (ISAS/JAXA) |
| 2. 「ひとみ衛星初期観測の成果について」      | 大橋隆哉 (首都大)       |
| 3. 「X線天文衛星代替機で目指すサイエンス」    | 田代信 (埼玉大)        |
| 4. 「X線天文衛星代替機の提案と準備状況」     | 前島弘則 (ISAS/JAXA) |

世話人：田代信 (高エネルギー宇宙物理連絡会・運営委員長)

## ◎進路相談コーナー

日 時：2017年3月16日（木）、17日（金） 11:30～13:30

場 所：椎木講堂

概 要：大学院生及びポストドク研究員のみなさん、日々研究を進めるなかで将来について迷いや相談したいことがあったりしませんか。キャリア支援委員会ではそのような皆さんの進路選択の一助になればと、進路相談コーナーを開催します。

相談役には、大学や研究所などのいわゆるアカデミックポジション以外の道を選び、天文学とその周辺分野で学んだことを活かして社会のさまざまな場で活躍する先輩方を中心にお招きする予定です。お昼ご飯を持ち込んでの相談も可です。ぜひ足を運んでみませんか？もちろん相談内容に関する個人情報や秘密は厳守されます。

なお、アドバイザーの出身分野や現在の仕事の内容については、決まり次第 Tennet にて案内します（当日、会場でもご案内します）。

主 催：日本天文学会キャリア支援委員会

## ◎日本天文学会公開講演会：「アニメ・SF・天文学」

日 時：2017年3月19日（日）13：30～16：30  
 場 所：エルガーホール8階大ホール（地下鉄七隈線天神南駅すぐ）  
 対 象：中学生以上，一般向け

概 要：近年、アニメやマンガは日本の文化の一部として広く受け入れられるようになってきています。その中でも、とくにSFを題材としたものは、宇宙や天文学から大きなインスピレーションを受けているものも少なくありません。逆に、アニメやマンガから宇宙への興味を抱き始め、研究の道に進んだ天文学者も少なくないでしょう。今回の公開講演会では、第一線で活躍されているクリエイターの方々に、天文学とSFの相互作用について語り合ってください。

### 第一部 基調講演

「マンガの見る未来はどこまで現実と一致するか？」 竹宮恵子氏（漫画家、京都精華大学学長）  
 「いまそこにある宇宙（セカイ）-アニメーションにおける宇宙観の変遷-」  
 出淵裕氏（アニメーション監督、脚本、デザイナー、イラストレーター、漫画家）  
 「天文学者が見る夢はどこまで実現したか？」 半田利弘氏（鹿児島大学教授、日本天文学会副会長）

### 第二部 パネルディスカッション

総合司会 山岡均氏（国立天文台広報室長、日本天文学会教育理事）

申 込：入場無料，参加申し込み不要です。

## 正会員展示

## ◎宇宙科学データアーカイブ DARTS

日 時：天文学会期間内  
 場 所：センター2号館  
 概 要：宇宙航空研究開発機構では宇宙科学データのアーカイブサイト DARTS を運営しています。DARTS は天文学、太陽物理学のみならず、月惑星科学、太陽地球物理学や微小重力科学などの多岐にわたる分野の宇宙科学データを公開しています。天文学ではX線天文衛星「ぎんが」、「あすか」、「すざく」、赤外線天文衛星「IRTS」、「あかり」、電波天文衛星「はるか」、太陽物理学では太陽観測衛星「ようこう」、「ひので」のデータがあります。それぞれのデータについて、長期保管を目的として、データのみならずドキュメント・解析プログラムなどの整備も進めており、時代が経過しても過去のデータの解析ができるように配慮しています。  
 また、目的のデータを見つけやすくする検索システムやクイックルック（早見）アプリケーションを公開しています。これらのアプリケーションは、研究利用を念頭としていますが、大学学部レベルの教育や高校教育や初等教育へも応用されています。  
 本展示では、DARTS の紹介、ウェブサイトやアプリケーションのデモンストレーションを行い、最新のDARTSを見ていただくとともに、皆様のご意見やご要望などのフィードバックを伺いたいと考えております。DARTSをご存知の方も知らなかった方も、以前使っていた方も今使っている方も、ぜひ本ブースへいらしてください。

世 話 人：海老沢研 (JAXA/ISAS) ebisawa.ken@jaxa.jp  
 菅原泰晴 (JAXA/ISAS) sugawara.yasuharu@jaxa.jp  
 殿岡英顕 (JAXA/ISAS) tonooka.hideaki@jaxa.jp

## 正会員展示

## ◎ JVO ALMA FITS データ公開システム

日 時 : 天文学会期間内

場 所 : センター 2 号館

概 要 : 世界最大の電波望遠鏡 ALMA が産み出す観測データは、観測提案者がデータを受け取ってから一年後には、誰もが利用できる公開データとして配信されている。データは ALMA 地域センターにより運営されている Science Portal より取得できる他、Japanese Virtual Observaotry (JVO) Portal から FITS データの取得が可能である。

ALMA のデータは観測方法によっては一つの観測天体に対し数 TB にも達することが想定され、全データをインターネット経由でダウンロードすることは非常に困難である。JVO Portal は、こうした巨大なデータのうち、利用者が必要とする空間・周波数領域の部分データのみを、場合によっては空間・波長分解能を落としてダウンロードする機能を提供する。

この目的のため、ALMA WebQL といったウェブブラウザ上でデータを可視化し必要なデータ領域を指定できる Web アプリケーションや、データをダウンロード後に詳細に ALMA の四次元データキューブを可視化するアプリケーション Vissage の開発を行っている。

本展示では、多くの方々に本システムの存在を知って頂き、ALMA のアーカイブデータを今後の天文学研究に活用して頂くことを目的として、その利用方法などの紹介を行う。

世 話 人 : 白崎裕治 (国立天文台) yuji.shirasaki@nao.ac.jp

川崎渉 (国立天文台) wataru.kawasaki@nao.ac.jp

大石雅寿 (国立天文台) masatoshi.ohishi@nao.ac.jp

## 正会員展示

## ◎ CAP2018 @福岡 presenting by OAO

日 時 : 天文学会期間内

場 所 : センター 2 号館

概 要 : 国際天文学連合 (IAU) の国際会議 CAP (Communicating Astronomy with the Public) 2018 については、立候補地多数のため国際選考が行われ、2017 年 10 月にオープンする福岡市科学館において、2018 年 3 月 24-28 日に日本で初めて開催することが決定した。同会議は 7 回目の開催であり、アジアでは 2011 年北京に次いで 2 回目となる。

CAP は、天文・宇宙に関する知見を市民に伝えるための研究や実践について情報交換するための会議で、人々との科学コミュニケーションを促進するための試みとして、学生や一般市民でも参加できるようオープン化されていることが特徴で、全体講演、分科会・ワークショップ、市民向けイベントなどで構成されている。

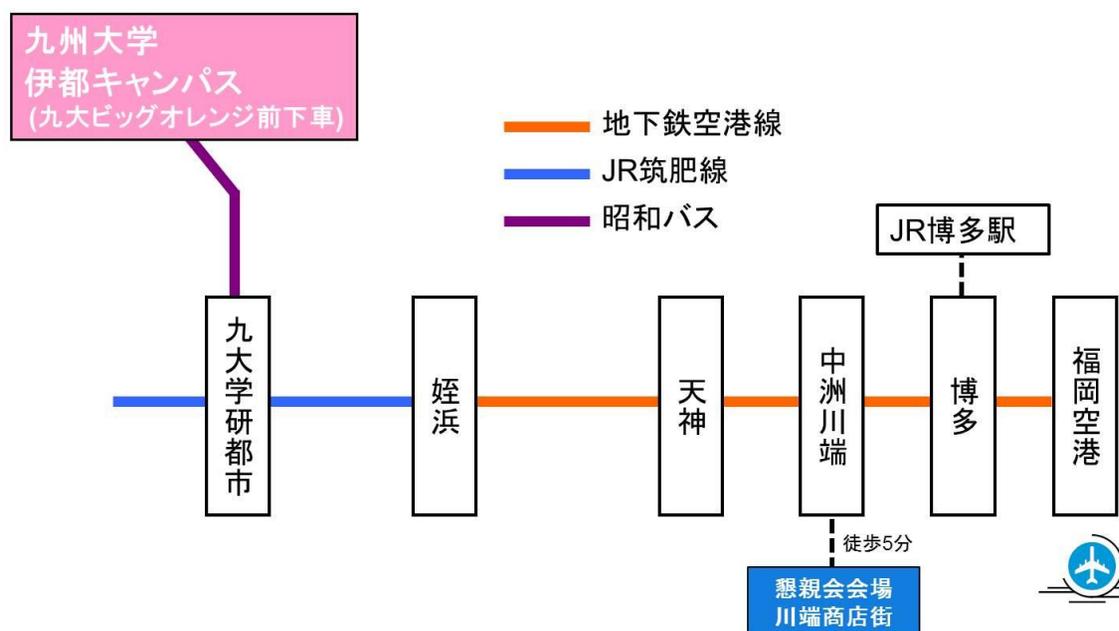
本ブースにおいては、CAP の歴史や意義、成果を紹介するとともに、CAP2018 福岡大会の詳しい内容や参加することのメリット等を紹介する。さらに、本会議の議長を務める IAU・OAO 室の活動や IAU コミッション C2 の紹介等も展示・解説する予定。年会期間中は C2 プレジデントや CAP 議長ら IAU メンバーが皆さんのお越しを展示ブースにてお待ちしております。年会中にキックオフ・イベントも実施予定。

世 話 人 : 縣秀彦 (国立天文台 OAO 室) h.agata@nao.ac.jp

山岡均 (国立天文台天文情報センター) hitoshi.yamaoka@nao.ac.jp

鷹野重之 (九州産業大学) shige.karino@gmail.com

## 春季年会会場 九州大学伊都キャンパスのご案内



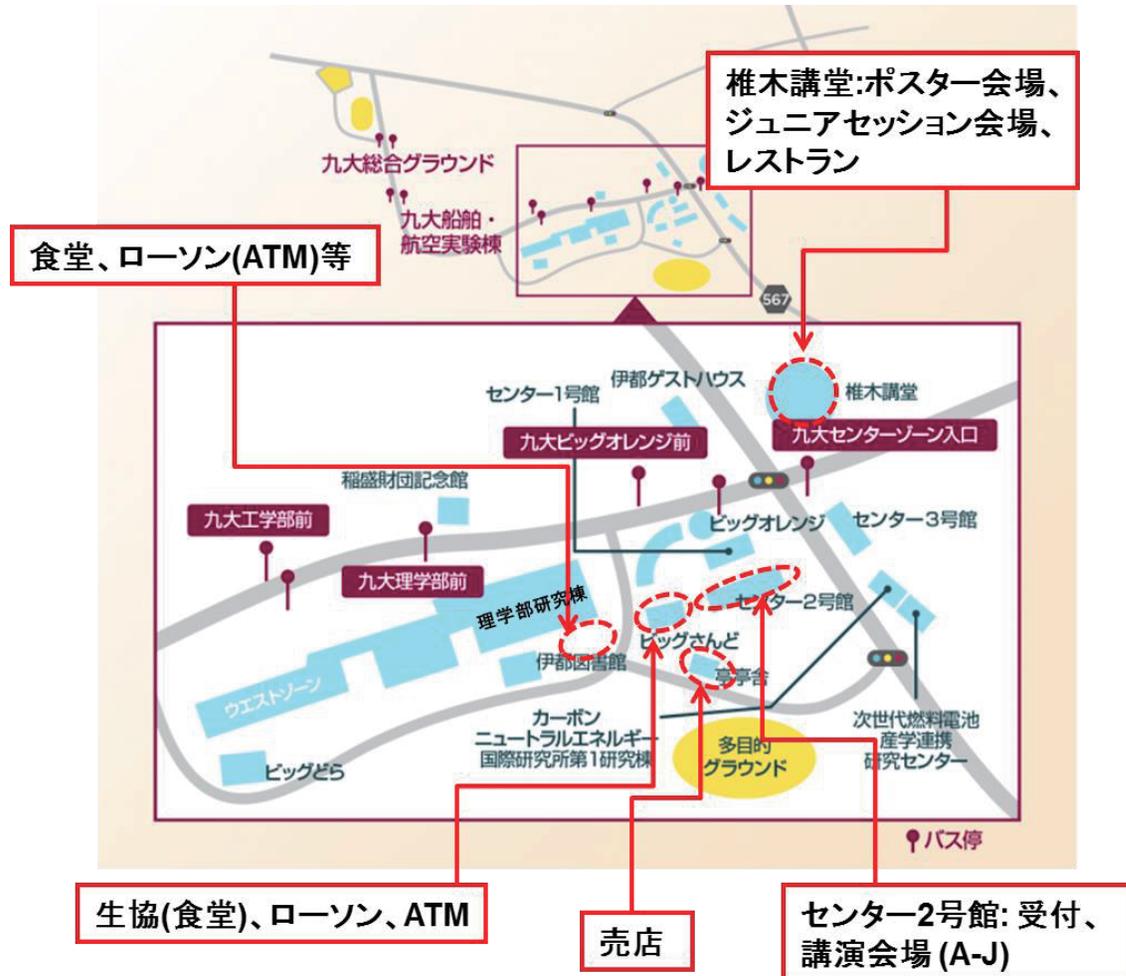
### アクセス

- ・福岡空港駅から地下鉄空港線・JR 筑肥線で九大学研都市下車 約 45 分
- ・JR 博多駅から地下鉄空港線・JR 筑肥線で九大学研都市下車 約 30 分
- ・福岡空港、JR 博多駅どちらの利用者も姪浜・西新行き以外の電車は九大学研都市まで直通、姪浜・西新行きの電車は姪浜で唐津方面(唐津行き、西唐津行き、筑前深江行き、筑前前原行き)に乗り換え
- ・九大学研都市からは昭和バスで九大ビッグオレンジ前下車 約 30 分  
(バスは渋滞のため時刻表より時間がかかる場合があります)
- ・西鉄福岡駅、天神バスセンターから西鉄バスで九大伊都キャンパス行きのバスもありますが、当日は大変な混雑が予想されるため、九大学研都市から昭和バスを利用することをお勧めします(バスターミナルを経由する都合上バスの増便が出来ません)。
- ・懇親会会場は、地下鉄空港線中洲川端駅の 5 番出口から徒歩 5 分の「川端商店街」で開催します。

九州大学伊都キャンパスへのアクセスは以下の HP もご参照下さい。

<https://www.kyushu-u.ac.jp/ja/campus/ito/>

## 九州大学伊都キャンパスマップ



キャンパス内は全面禁煙です。喫煙は指定の場所をお願いいたします。

年会受付までは、九大ビッグオレンジ前下車徒歩2分です。

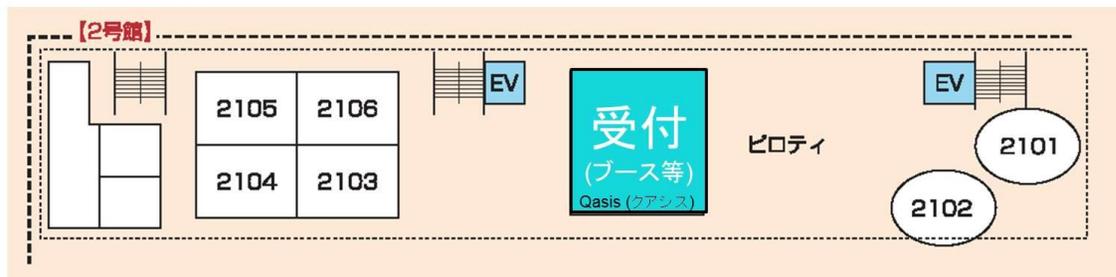
無線LANはeduroamのアカウントで接続可能です。eduroam参加機関であれば取得できますので、あらかじめ取得をお願いします。eduroam参加機関以外で無線LANが必要な参加者は受付でご相談下さい。

会場のセンター2号館隣にあるビッグさんどには、ローソンがあります。また、ATMは理学部研究棟前のローソン内、ビッグさんどと売店餃餃舎店内にあります。伊都キャンパス内の食堂などについては以下もご参照下さい(春休み中ですので営業していない場合があります)

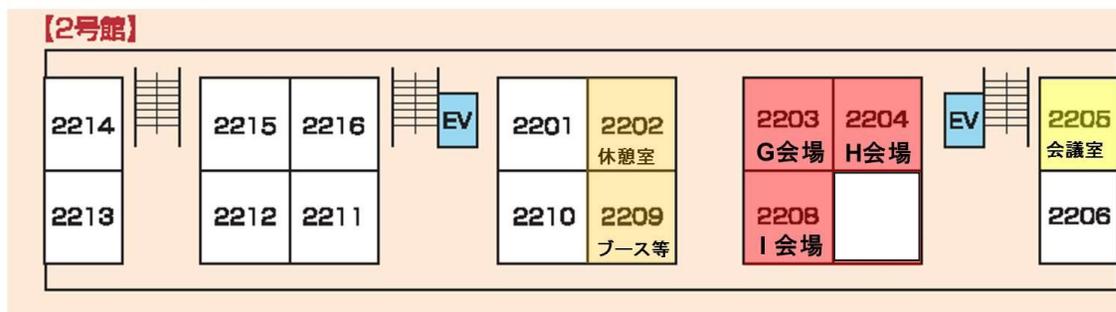
[http://suisin.jimu.kyushu-u.ac.jp/ito\\_info/seikatsu.html](http://suisin.jimu.kyushu-u.ac.jp/ito_info/seikatsu.html)

## 会場案内図

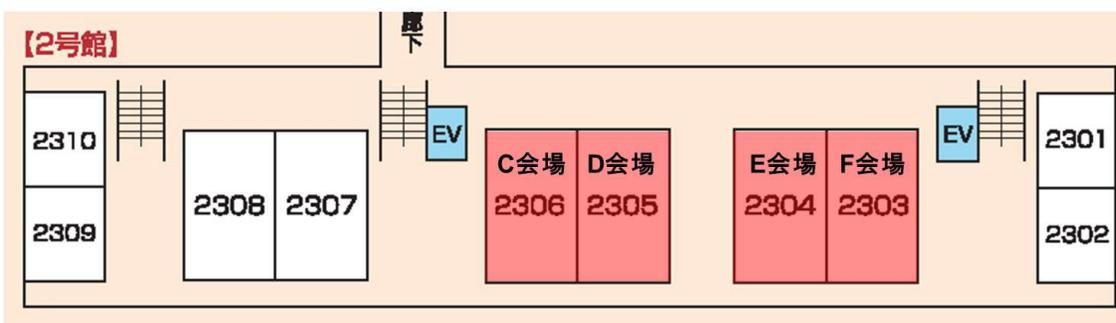
## センター2号館1F



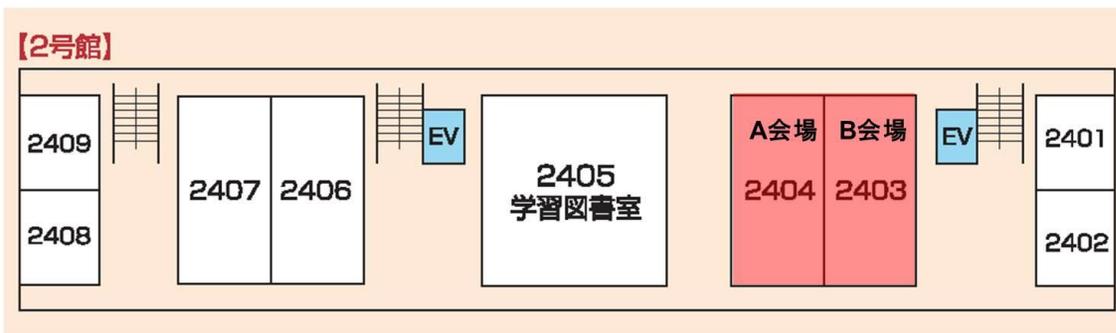
## センター2号館2F



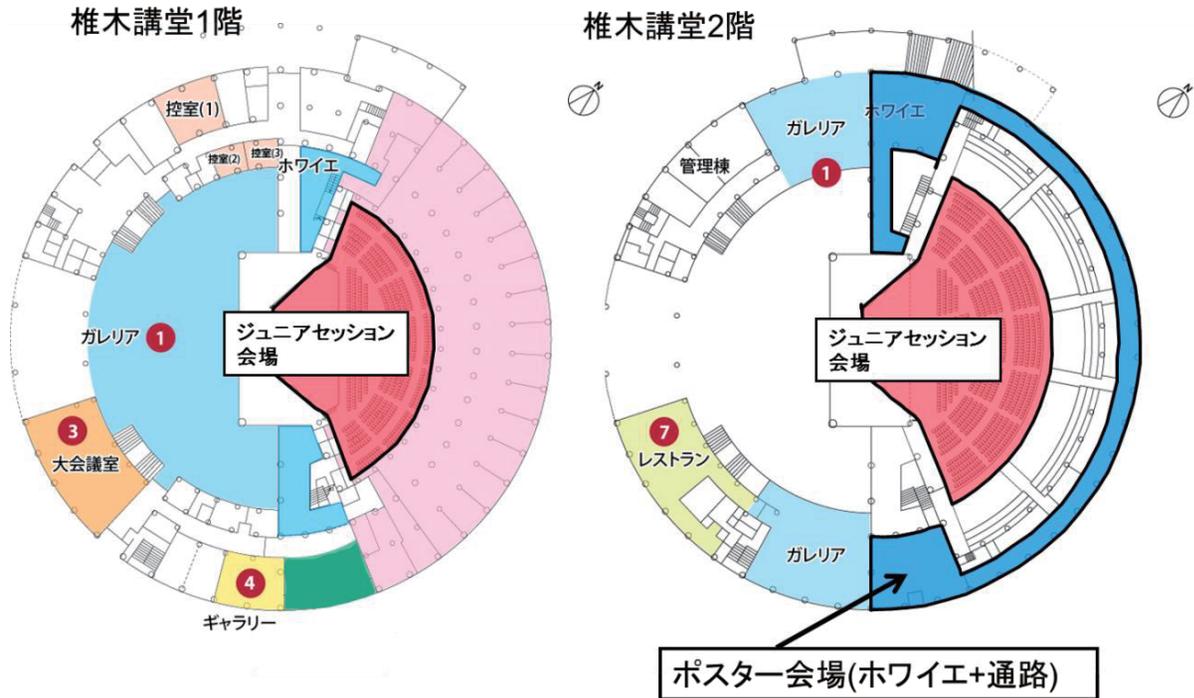
## センター2号館3F



## センター2号館4F



## 椎木講堂



福岡観光コンベンションビューローアプリ情報：

九大伊都キャンパスへのアクセス、グルメ、観光情報など

ようこそ、福岡へ 快適な旅をサポート “オールインワン”の便利なアプリが誕生！

### Meeting Place Fukuoka

- アクセス** ..... 地下鉄の乗り方は？
- グルメ** ..... ラーメン屋さんはどこですか？
- 観光** ..... 神社、寺院 などの観光名所
- ネットワーク** ..... アクセスポイントの情報
- クーポン** ..... 割引クーポン など

今すぐダウンロード

Meeting Place Fukuoka

福岡市 FUKUOKA CITY

FUKUOKA NEXT

FCVB 福岡観光コンベンションビューロー

## 口頭セッション 3月15日(水)

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場	G会場	H会場	I会場
開始時刻	【銀河核】	【星・惑星】	【銀河】	【星間現象】	【銀河団】	【コンパクト天体】	【超新星爆発】	【宇宙論】	【観測機器】
13:00	S01a	P201a	R01a	Q01a	T01a	W201a	K01a	U01a	V301a
13:12	S02a	P202a	R02a	Q02a	T02a	W202a	K02b K03b K04b	U02a	V302a
13:24	S03a	P203a	R03a	Q03a	T03a	W203a	K05a	U03a	V303a
13:36	S04a	P204a	R04a	Q04a	T04a	W204a	K06a	U04a	V304a
13:48	S05a	P205a	R05a	Q05a	T05a	W205a	K07a	U06a	V305a
14:00	S06a	P206a	R06a	Q06a	T06b T07b T08b	W206a	K08a	U07a	V306a
14:12	S07a	P207a	R07a	Q07a	T09a	W207a	K09a	U08a	V307a
14:24	S08a	P208a	R08b R09b R10b	Q08a	T10a	W208a	K10a	U09a	V308b V309b V310b
14:36	S09a	P209b P210b P212b	R11a	Q10a	-	W209a	K11a	U10a	V311a
14:48	S10a	P213b P214b P215b	-	Q11a	-	W211b W212b	K12a	U11a	V312a
15:00	-	-	-	-	-	-	-	-	V313b
15:15	特別セッション (A会場)								
16:30	天文教育フォーラム (A会場)								
18:00	理事会								

## 口頭セッション 3月16日(木)

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場	G会場	H会場	I会場
開始時刻	【銀河核】	【星・惑星】	【銀河】	【星間現象】	【銀河団】	【コンパクト天体 / 教育・他】	【超新星爆発】	【宇宙論】	【観測機器】
09:30	S11a	P216a	R12a	Q13a	T11a	W213a	K14a	U12a	V314a
09:42	S12a	P217a	R13a	Q14a	T12a	W214a	K15a	U13a	V315a
09:54	S13a	P218a	R14a	Q15a	T13a	W215a	K16a	U14a	V316a
10:06	S14a	P219a	R15a	Q16a	T14a	W216a	K17a	U15a	V317a
10:18	S15a	P220a	R17a	Q17a	T15a	Y01a	K18a	U16a	V318a
10:30	S16a	P221b P222b P223b	R19b R20b R21b	Q18a	T16a	Y02b Y03b Y04b	K19a	U17a	V319b V320b V321b
10:42	S17b S18b S19b	P224a	R22a	Q19a	T17a	Y05b Y06b Y07b	K20b	U19a	V322a
10:54	S20b S21b S22b	P225a	R23a	Q20a	T19a	Y08b Y09b Y10b	-	U20b	V323a
11:06	S23b S24b S25b	P226a	-	Q21a	T20a	Y12b Y14b Y17b	-	-	V324a
11:18	S26b S27b S28b	P227b P228b	-	Q22b Q23b Q24b	T21b T22b	Y18b	-	-	V325a
11:30	昼休み(代議員総会)(A会場)								
12:30	ポスター								
開始時刻	【銀河核】	【星・惑星】	【太陽】	【星間現象】	【観測機器】	【教育・他】	【星・惑星】	【コンパクト天体】	【観測機器】
13:30	S32a	P231a	M01a	Q25a	V201a	Y19a	P101a	W101a	V327a
13:42	S33a	P232a	M02a	Q26a	V202a	Y20a	P102a	W102a	V328a
13:54	S34a	P233a	M03a	Q27a	V203a	Y21a	P103a	W103a	V329b V330b V331b
14:06	S35a	P234a	M04a	Q28b Q29b Q30b	V204b V205b V206b	Y22a	P104a	W104a	V332a
14:18	S36a	P235a	M05a	Q31a	V207a	Y23a	P105a	W105a	V333a
14:30	S37a	P236a	M06a	Q32a	V208a	Y24a	P106b P107b P108b	W106a	V335a
14:42	S38a	P237a	M07a	Q33a	V209b V210b V211b	Y25a	P109b P110b P111b	W107a	V336a
14:54	S39a	P238a	M08a	Q34b Q35b Q36b	V212a	Y26a	P112b P113b P114b	W108a	V337a
15:06	S40a	P239a	M09a	Q38a	V213b V215b V216b	Y27a	P115a	W109a	V338a
15:18	S41a	P240a	M10a	Q39a	V217a	Y28a	P116b P117b	W110a	V339b
15:30	S42a	-	-	Q40a	-	-	-	-	-

## 口頭セッション 3月17日(金)

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場	G会場	H会場	I会場
開始時刻	【超新星残骸】	【星・惑星/恒星】	【太陽】	【星間現象】	【観測機器】	【銀河形成】	【星・惑星】	【コンパクト天体】	【観測機器】
9:30	Z101r ? Z106a	P241a	M11a	Q41a	V218a	X01a	P118a	W111b W112b W113b	V340a
9:42		P242a	M12a	Q42a	V219b V220b V221b	X02b X03b X04b	P119b P120b P121b	W114b W115b	V341a
9:54		P243a	M13a	Q43a	V222a	X05a	P122a	W116a	V342a
10:06		P244a	M14a	Q44a	V224a	X06a	P123a	W117a	V343a
10:18		P245a	M15a	Q45a	V225a	X07a	P124a	W118a	V344a
10:30		N01a	M16a	Q46a	V226a	X08b X09b X10b	P125a	W119a	V101a
10:42		N02a	M17a	Q47a	V227b V228b V230b	X12a	P126a	W120a	V102a
10:54		N03a	M18b M19b M20b	Q48a	V231a	X13a	P127a	W121a	V103a
11:06		N04a	M23b M24b M25b	Q49a	V232a	X14a	P128a	W122a	V104b V105b V106b
11:18		N05b N06b N07b	M26b M27b M28b	Q50a	V233a	X15a	P129b P130b P131b	W123a	V107b V108b V109b
11:30	-	-	M29b	Q51b	-	X16b	-	-	-
11:30	昼休み								
12:30	ポスター								
開始時刻	【超新星残骸】	【恒星】	【太陽】	【星間現象】	【観測機器】	【銀河形成】	【星・惑星】	【コンパクト天体】	【観測機器】
13:30	Z107r ? Z112a	N09a	M30a	Q52a	V234a	X17a	P132a	W124a	V111a
13:42		N10a	M31a	Q53a	V235a	X18a	P133a	W125a	V112a
13:54		N11a	M32a	Q54a	V236a	X19a	P134a	W126a	V113b V114b V115b
14:06		N12a	M33a	Q55a	V237a	X20a	P135a	W127a	V116a
14:18		N13a	M34a	Q56a	V238a	X21a	P136a	W128a	V117a
14:30		N14a	M35a	Q57a	V239a	X22a	P137a	W129a	V118a
14:42		N15a	M36a	Q58a	V240a	X23b X24b X25b	P138a	W130a	V119a
14:54		N16a	M37a	Q59a	V241a	X26a	P139a	W131a	V120a
15:06		N17a	M38a	Q60a	V242a	X27b X28b X29b	P140a	W132a	V121a
15:18		N18a	M39a	Q61a	V243b V244b V245b	X30a	-	W133a	V122a
15:30	-	-	-	Q62b	-	X31a	-	-	V123b V124b
15:45	会員全体集会 (A会場)								
16:45	受賞記念講演 (A会場)								

## 口頭セッション 3月18日(土)

	A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	F会場	G会場	H会場	I会場
開始時刻	【超新星残骸】	【恒星】	【太陽】	【太陽系】	【観測機器】	【銀河形成】	【星・惑星】	【コンパクト天体】	【観測機器】
9:30	Z113r ゝ Z118b	N19a	M40a	L01a	V246a	X33a	P141a	W134a	V130a
9:42		N20a	M41a	L02a	V247a	X34a	P142a	W135a	V131a
9:54		N21a	M42a	L03a	V248a	X35a	P143a	W136a	V132a
10:06		N23a	M43a	L04a	V249a	X36a	P144a	W137a	V133a
10:18		N24a	M44a	L05a	V250a	X37a	P145a	W138a	V134a
10:30		N25a	M45a	L06a	-	X38a	P146a	W139a	V135a
10:42		N26a	M46a	L07a	-	X39a	P147a	W140a	V136a
10:54		-	M47a	-	-	X40a	P148a	W141a	V137a
11:06		-	M48a	-	-	X41a	P149a	W142a	V138a
11:18		-	M49a	-	-	X42a	-	W143a	V139a
11:30		-	M50a	-	-	-	-	-	V140a
11:42		-	-	M51a	-	-	-	-	-
11:30	昼休み								
12:30	ポスター								
13:30	特別セッション (A会場)								

ポスターセッション 3月16日(木) ~ 3月18日(土)

<p>【Z1. 超新星残骸】(1)</p> <p>Z118b</p>	<p>【R. 銀河】(9)</p> <p>R08b R09b R10b R16c R18c</p> <p>R19b R20b R21b R24c</p>
<p>【K. 超新星爆発】(5)</p> <p>K02b K03b K04b K13c K20b</p>	<p>【S. 銀河核】(15)</p> <p>S17b S18b S19b S20b S21b</p> <p>S22b S23b S24b S25b S26b</p> <p>S27b S28b S29c S30c S31c</p>
<p>【M. 太陽】(12)</p> <p>M18b M19b M20b M21c M22c</p> <p>M23b M24b M25b M26b M27b</p> <p>M28b M29b</p>	<p>【T. 銀河団】(6)</p> <p>T06b T07b T08b T18c T21b</p> <p>T22b</p>
<p>【N. 恒星】(5)</p> <p>N05b N06b N07b N08c N22c</p>	<p>【U. 宇宙論】(4)</p> <p>U05c U18c U20b U21c</p>
<p>【P1. 星・惑星】(17)</p> <p>P106b P107b P108b P109b P110b</p> <p>P111b P112b P113b P114b P116b</p> <p>P117b P119b P120b P121b P129b</p> <p>P130b P131b</p>	<p>【V1. 観測機器】(17)</p> <p>V104b V105b V106b V107b V108b</p> <p>V109b V110c V113b V114b V115b</p> <p>V123b V124b V125c V126c V127c</p> <p>V128c V129c</p>
<p>【P2. 星・惑星】(14)</p> <p>P209b P210b P211c P212b P213b</p> <p>P214b P215b P221b P222b P223b</p> <p>P227b P228b P229c P230c</p>	<p>【V2. 観測機器】(21)</p> <p>V204b V205b V206b V209b V210b</p> <p>V211b V213b V214c V215b V216b</p> <p>V219b V220b V221b V223c V227b</p> <p>V228b V229c V230b V243b V244b</p> <p>V245b</p>
<p>【Q. 星間現象】(14)</p> <p>Q09c Q12c Q22b Q23b Q24b</p> <p>Q28b Q29b Q30b Q34b Q35b</p> <p>Q36b Q37c Q51b Q62b</p>	

ポスターセッション 3月16日(木) ~ 3月18日(土)

【V3. 観測機器】(13)

V308b V309b V310b V313b V319b

V320b V321b V326c V329b V330b

V331b V334c V339b

【W1. コンパクト天体】(5)

W111b W112b W113b W114b W115b

【W2. コンパクト天体】(3)

W210c W211b W212b

【X. 銀河形成】(16)

X02b X03b X04b X08b X09b

X10b X11c X16b X23b X24b

X25b X27b X28b X29b X32c

X43c

【Y. 教育・他】(17)

Y02b Y03b Y04b Y05b Y06b

Y07b Y08b Y09b Y10b Y11c

Y12b Y13c Y14b Y15c Y16c

Y17b Y18b

【PDL】

【展示コーナー】

Exelis VIS (株)

宇宙航空研究開発機構

天文データセンター

天文情報センター

## Z1. 超新星残骸の多波長観測と理論研究の展開

3月17日(金) 午前・A会場		3月18日(土) 午前・A会場	
09:30	Z101r 超新星残骸プラズマのX線分光観測 澤田真理(青山学院大学)	09:30	Z113r Now and the Future of Broadband Modeling of SNRs Shiu-Hang Lee(Kyoto University)
10:06	Z102r 超新星残骸観測から探る超新星爆発 富永望(甲南大学)	10:06	Z114a NuSTAR 衛星を用いた超新星残骸 RX J1713.7-3946 の観測結果 辻直美(立教大学)
10:42	Z103a 「ひとみ」衛星 SXS 精密 X 線分光器に よる Crab の熱的プラズマ放射の探査 辻本匡弘(宇宙航空研究開発機構)	10:18	Z115a 超新星残骸 Kes 79 に付随する星間ガス 栗木美香(筑波大学)
10:54	Z104a 超新星残骸 SN1006 における衝撃波 直下での電子加熱と電離速度 加藤佑一(東京大学)	10:30	Z116a 超新星残骸における MeV 陽子起源の 中性鉄輝線放射 信川久実子(奈良女子大学)
11:06	Z105a 電波シンクロトロン偏光による超新星 残骸磁場スペクトルの測定について 霜田治朗(青山学院大学)	10:42	Z117a カシオペア A の逆行衝撃波の固有運 動とスペクトル変動の調査 佐藤寿紀(首都大学東京/宇宙航空 研究開発機構)
11:18	Z106a 南極氷床コアに刻まれた超新星カシオ ペア A の爆発年代 望月優子(理化学研究所)	10:54	Z118b Ia 型超新星残骸 Tycho に付随する “Fe knot” の組成と起源 山口弘悦(NASA/GSFC)
3月17日(金) 午後・A会場			
13:30	Z107r 超新星残骸からの非熱的 X 線・ガン マ線放射の観測: 現状と今後の展望 田中孝明(京都大学)		
14:06	Z108r 超新星残骸における宇宙線研究の到 達点と展望: 電波天文学の立場から 佐野栄俊(名古屋大学)		
14:42	Z109a 超新星残骸 IC 443 に付随する星間ガ スと陽子起源ガンマ線の検証 吉池智史(名古屋大学)		
14:54	Z110a 超新星残骸からの陽子起源ガンマ線 放射スペクトルの変調機構 井上剛志(名古屋大学)		
15:06	Z111a 高マッハ数衝撃波における電子の サーフィン・ドリフト加速 松本洋介(千葉大学)		
15:18	Z112a 超高エネルギーガンマ線による超新星 残骸の観測の現状と展望 中森健之(山形大学)		

## K. 超新星爆発

3月15日(水) 午後・G会場		14:48	K12a	原子核による前兆ニュートリノ放出 加藤ちなみ(早稲田大学)	
13:00	K01a			K13c	非球対称な重力崩壊型超新星爆発における元素合成の大質量星質量依存性 藤本信一郎(熊本高等専門学校)
13:12	K02b				
3月16日(木) 午前・G会場		09:30	K14a	超新星コアにおける非弾性散乱によるニュートリノのエネルギー変化 堀雄介(早稲田大学)	
13:12	K03b	09:42	K15a	中心エンジンによって駆動される超新星の放射効率 鈴木昭宏(京都大学)	
13:12	K04b	09:54	K16a	超新星爆発計算のための新しい初期条件の作り方 諏訪雄大(京都大学)	
13:24	K05a	10:06	K17a	人口親星モデルから探る超新星爆発メカニズムの系統的調査 山本佑(早稲田大学)	
13:36	K06a	10:18	K18a	Shellular 回転を伴っている高速回転する親星モデルの回転平衡形状 藤澤幸太郎(早稲田大学)	
13:48	K07a	10:30	K19a	iPTF13bvn の連星親星モデルの再検証 平井遼介(早稲田大学)	
14:00	K08a	10:42	K20b	二重白色矮星連星合体の SPH シミュレーション : NLTT12758 の合体と Ia 型超新星 佐藤裕史(東京大学)	
14:12	K09a				
14:24	K10a				
14:36	K11a				

## L. 太陽系

## M. 太陽

3月18日(土) 午前・D会場		3月16日(木) 午後・C会場			
09:30	L01a	太陽系外縁小天体の個数密度に迫る OASES 恒星掩蔽モニタ観測 @ 宮古島 有松亘(国立天文台)	13:30	M01a	ALMA Scientific Verification (SV) data of solar observations 下条圭美(国立天文台)
09:42	L02a	超小型新宇宙探査機 PROCYON に搭載された LAICA 望遠鏡による 67P/Churyumov-Gerasimenko 彗星の水分子の生成率 新中善晴(国立天文台)	13:42	M02a	太陽観測衛星将来計画の国際協力構築のための NGSPM-SOT による検討 清水敏文(宇宙航空研究開発機構)
09:54	L03a	WINERED による彗星 CN 分子バンド輝線の高分散分光観測 河北秀世(京都産業大学)	13:54	M03a	CLASP 再飛翔計画～紫外線偏光観測による磁場診断手法確立を目指して～ 石川遼子(国立天文台)
10:06	L04a	8世紀シリア語自筆写本における彗星画像 藤原康德(総合研究大学院大学)	14:06	M04a	SUNRISE-3 気球実験：近赤外線偏光分光装置 SCIP の進展 勝川行雄(国立天文台)
10:18	L05a	「あかり」遠赤外線全天画像に見られる黄緯±17°小惑星ダストバンド構造 大坪貴文(東京大学)	14:18	M05a	多波長帯同時偏光分光観測装置の開発 阿南徹(京都大学)
10:30	L06a	小惑星探査ミッション「はやぶさ2」の現状と今後の運用について 吉川真(宇宙航空研究開発機構)	14:30	M06a	IBIS —「ひので」— IRIS 共同観測による静穏領域フィラメント形成下の磁束キャンセレーション領域の3次元磁場構造の理解 久保雅仁(国立天文台)
10:42	L07a	土星リングにおける中間赤外線輝分布の変動 藤原英明(国立天文台)	14:42	M07a	ひので可視光狭帯域フィルター観測によるスピキュール根元のダイナミクス 末松芳法(国立天文台)
			14:54	M08a	飛騨天文台 SMART 望遠鏡を用いた高速成分を持つ点状プラズマ塊の統計解析 廣瀬公美(京都大学)
			15:06	M09a	飛騨天文台 SMART/SDDI を用いたフィラメント噴出現象の速度場解析 大辻賢一(京都大学)
			15:18	M10a	He I 10830Å 吸収線で見つかったフィラメントの磁場の方向の統計的性質 花岡庸一郎(国立天文台)

3月17日(金) 午前・C会場		11:06	M23b	NOAA 活動領域 11692 における光球磁場構造の解析 土井崇史(東京大学)	
09:30	M11a	熱対流の散逸について 堀田英之(千葉大学)			
09:42	M12a	高粘性時の熱対流のエネルギー輸送について 新井祥太(千葉大学)	11:06	M24b	太陽フレア活動と磁場の捻じれとの相関に関する統計解析 旭友希(名古屋大学)
09:54	M13a	熱対流が担う上部対流層での磁場の構造形成 政田洋平(愛知教育大学)	11:06	M25b	太陽フレア予報の評価 久保勇樹(情報通信研究機構)
10:06	M14a	「ひので」観測 10 年：最強の黒点磁場 岡本文典(国立天文台)	11:18	M26b	活動領域非線形フォースフリー磁場計算システムの開発 3 塩田大幸(名古屋大学)
10:18	M15a	表面对流による水平方向磁場輸送における3次元性と磁場の影響評価 飯田佑輔(関西学院大学)	11:18	M27b	3次元リコネクション領域におけるプラズモイドの自発的構造形成 柴山拓也(名古屋大学)
10:30	M16a	デコンボリューション解析による光球における対流速度場の3次元構造の取得 大場崇義(総合研究大学院大学 / 宇宙航空研究開発機構)	11:18	M28b	高速リコネクションと電気抵抗モデルの関係に関するシミュレーション研究 與那覇公泰(名古屋大学)
10:42	M17a	局所的日震学による高周波音波の生成領域の探査 神原永昌(総合研究大学院大学 / 国立天文台)	11:30	M29b	正十二面体分割三角格子による太陽風定常解を取り入れた解適合格子 MHD シミュレーション 小川智也(北里大学)
10:54	M18b	正規化 RL 法を用いた Hinode/SP の光球大気の画像回復手法の開発 大場崇義(総合研究大学院大学 / 宇宙航空研究開発機構)	3月17日(金) 午後・C会場		
10:54	M19b	CLASP で観測された Si III・O V 輝線の散乱偏光とその Center-to-Limb Variation 勝川行雄(国立天文台)	13:30	M30a	太陽周期活動予測のための太陽表面速度の解析 藤山雅士(名古屋大学)
10:54	M20b	フィラメント消失前後の磁場構造の比較 海宝孝祐(茨城大学)	13:42	M31a	太陽表面磁束輸送モデルによる次期太陽周期活動度予測について 飯島陽久(名古屋大学)
	M21c	マイクロレンズ面分光装置による He I 1083 nm 線の観測 末松芳法(国立天文台)	13:54	M32a	京大・理・附属天文台による CaII K 太陽全面像の長期観測事業のまとめと今後の展望 坂上峻仁(京都大学)
	M22c	太陽彩層の2次元高速分光観測 當村一郎(大阪府立大学)	14:06	M33a	International Sunspot Number の改訂と東京天文台・国立天文台の黒点相対数 桜井隆(国立天文台)
			14:18	M34a	彩層伝播アルヴェーン波の非線形相互作用による境界透過率への寄与 河野隼也(東京大学)

14:30	M35a	MHD シミュレーションを利用した太陽風速度モデルの再現性の評価 石田敏洋(名古屋大学)	10:42	M46a	Evolution of Magnetic Twist in a Flare-Productive Active Region Johan Muhamad(ISEE/Nagoya University)
14:42	M36a	太陽風構造とコロナ質量放出の相互作用によるフラックスロープの変形と偏向 塩田大幸(名古屋大学)	10:54	M47a	Gradient Boosted Trees による太陽フレア予測と時系列交差検証 西塚直人(情報通信研究機構)
14:54	M37a	太陽風シンチレーションによる Crab パルサー巨大電波パルス間の非ポアソン性の評価 小林瑛史(青山学院大学)	11:06	M48a	太陽フレアの impulsivity と白色光・CME との関係 渡邊恭子(防衛大学校)
15:06	M38a	3次元太陽風グローバルシミュレーション: コロナホールによる高速流の影響の予測について 田光江(情報通信研究機構)	11:18	M49a	太陽フレアにおける硬 X 線・電波放射の特徴解析と電子注入条件への示唆 川手朋子(宇宙航空研究開発機構)
15:18	M39a	非フォースフリー太陽大気磁場モデルに対する新しい磁気流体力学的緩和法 三好隆博(広島大学)	11:30	M50a	太陽フレア放射スペクトル導出のための観測データ統計解析 西本将平(防衛大学校)
3月18日(土) 午前・C会場					
09:30	M40a	太陽コロナ中の磁力線に沿ったプラズマの分布 柴崎清登(太陽物理学研究所)	11:42	M51a	Comparative study of energetic particle acceleration in solar corona and Earth's magnetosphere Shinsuke Imada(Nagoya University)
09:42	M41a	Hinode/XRT を用いたマイクロフレアの統計解析 上村亮弥(名古屋大学)			
09:54	M42a	太陽、恒星フレアの EM-T スケーリング則の検証 行方宏介(京都大学)			
10:06	M43a	IRIS - 飛騨 共同観測: 多波長分光観測で探る太陽フレアのダイナミクス 鄭祥子(京都大学)			
10:18	M44a	太陽フレアカスプ領域への下降流と乱流運動の関係性 吉田正樹(総合研究大学院大学/国立天文台)			
10:30	M45a	太陽コロナにおける爆発的不安定性の臨界条件について 草野完也(名古屋大学)			

## N. 恒星

3月17日(金) 午前・B会場		14:06	N12a	X-ray study of stellar flares with MAXI/GSC: A universal correlation between the duration of a flare and its X-ray luminosity 坪井陽子(中央大学)	
10:30	N01a	すざく X 線変動天体の詳細解析及び Swift となゆたによる追観測 木下聖也(東京大学/宇宙航空研究開発機構)	14:18	N13a	XMM-Newton を用いた太陽型星のスーパーフレア調査 杉田龍斗(中央大学)
10:42	N02a	W UMa 型食連星系 TZ Boo の光度曲線変動と spot 大島修(岡山理科大学)	14:30	N14a	The Herschel Planetary Nebula Survey (HerPlaNS): the best-fit dusty photoionisation model of the Galactic PN NGC6781 大塚雅昭(ASIAA)
10:54	N03a	食連星 HW Vir の光度曲線解析 佐々井祐二(津山工業高等専門学校)	14:42	N15a	RGB 及び早期 AGB 段階での質量放出率の理論的見積もり 保田悠紀(北海道大学)
11:06	N04a	かんむり座 R の復光時におけるスペクトル変化 大島誠人(兵庫県立大学西はりま天文台)	14:54	N16a	長周期 Wolf-Rayet 連星系 WR 19 の X 線モニタリング観測 I 菅原泰晴(宇宙航空研究開発機構)
11:18	N05b	高分散偏光スペクトルから読み解く $\beta$ Lyr の双極アウトフローの起源 新中善晴(国立天文台)	15:06	N17a	スーパーチャンドラセカール超新星候補 SN Ia 2012dn の赤外線超過: 放射起源である星周ダストの空間分布と親星への示唆 長尾崇史(京都大学)
11:18	N06b	VERA によるミラ型変光星 T UMa の位置天文観測 大山まど薫(鹿児島大学)	15:18	N18a	初代超新星爆発におけるフッ素生成 柴田まさき(甲南大学)
11:18	N07b	近・中間赤外線測光データを用いた AGB 星の機械分類 安部太晴(広島大学)	3月18日(土) 午前・B会場		
	N08c	AGB 星で見ついている LSP 変光現象の起源について 高山正輝(兵庫県立大学)	09:30	N19a	SDSS/SEGUE で見つかった超金属欠乏星の詳細組成解析 II 松野允郁(総合研究大学院大学/国立天文台)
3月17日(金) 午後・B会場		09:42	N20a	超金属欠乏 AGB 星の水素混合による s 過程元素合成 須田拓馬(東京大学)	
13:30	N09a	G,K,M 型星におけるフレアと恒星黒点の関係 前原裕之(国立天文台)	09:54	N21a	M 型星の近赤外高分散スペクトルにおける FeH 吸収線の振る舞い 石川裕之(総合研究大学院大学)
13:42	N10a	全天 X 線監視装置 MAXI によって得られた RSCVn 型星のフレア発生頻度 佐々木亮(中央大学)		N22c	すばる/MOIRCS の多波長同時分光モニタリング観測により求めた褐色矮星の 3 次元構造 空華智子(国立天文台)
13:54	N11a	ベイズ推定で迫るスーパーフレア星の巨大黒点の寿命及び差動回転の検証 幾田佳(京都大学)			

## P1. 星・惑星形成

10:06	N23a	KIC11145123 の扁平率 関井隆(国立天文台)	3月16日(木)午後・G会場
10:18	N24a	KIC11145123 の内部回転 八田良樹(総合研究大学院大学)	13:30 P101a AKARIによる星生成領域近赤外線氷 吸収バンドの観測 尾中敬(東京大学)
10:30	N25a	A型星 KIC11145123 の高分散分光 解析 比田井昌英(東海大学)	13:42 P102a Analyses of the AKARI Phase 3 Prism Slitless Spectroscopic Data of the Large Magellanic Cloud Jin Zhang(The University of Tokyo)
10:42	N26a	赤色巨星の混合振動モードの再定式 化と抑圧された双極子モード問題の 考察 高田将郎(東京大学)	13:54 P103a Near-infrared Circular Polarization Survey in Star-forming Regions: 3 Jungmi Kwon(ISAS/JAXA)
			14:06 P104a 次世代赤外線天文衛星 SPICAによる 星および惑星系形成過程の解明 深川美里(名古屋大学)
			14:18 P105a ASTE望遠鏡による小質量星形成領 域の高密度分子雲コア探査 徳田一起(大阪府立大学)
			14:30 P106b おうし座暗黒星雲における分子雲コア の大局的分布 II 有馬宣明(大阪府立大学)
			14:30 P107b OrionB 分子雲における超低質量天体 の近赤外広域測光探査観測 大朝由美子(埼玉大学)
			14:30 P108b へび座分子雲における超低質量天体 形成の観測的研究 小田達功(埼玉大学)
			14:42 P109b すばる望遠鏡広視野撮像カメラ HSC を用いたおうし座星形成領域における 低質量天体探査 馬場はるか(総合研究大学院大学)
			14:42 P110b 高銀緯分子雲における星形成の探査 観測 平塚雄一郎(埼玉大学)
			14:42 P111b トラペジウムクラスターの赤外線長期 撮像観測 -2 伊藤綾香(法政大学)
			14:54 P112b ブライトリム分子雲の可視分光探査(2) 細谷謙介(兵庫県立大学)

14:54	P113b FU Ori 型星 V960Mon の中分散分光モニター観測 高木悠平(国立天文台)	10:18	P124a 初代星によるフィードバックを考慮した金属欠乏星形成環境 千秋元(甲南大学)
14:54	P114b 「あかり」データアーカイブプロジェクトの現状(8) 山村一誠(宇宙航空研究開発機構)	10:30	P125a 大質量星形成における輻射フィードバック効果の金属度・降着率依存性 福島肇(京都大学)
15:06	P115a 「あかり」近・中間赤外線スリットレス分光アーカイブの作成: 1. 波長 9 $\mu$ m 点源カタログ 山岸光義(宇宙航空研究開発機構)	10:42	P126a 初代星形成期の自転が降着成長および降着円盤構造に与える影響 高橋実道(東北大学)
15:18	P116b 逆位相補償を用いた IRAS05358+3543 の年周視差による距離決定及び内部運動 水窪 耕兵(鹿児島大学)	10:54	P127a 衝撃波圧縮を受けた低金属量ガス雲の熱進化と低質量分裂片の形成について 仲内大翼(東北大学)
15:18	P117b 大マゼラン雲における孤立した大質量原始星に付随する分子ガス観測(4) 原田遼平(大阪府立大学)	11:06	P128a 原始惑星系円盤光蒸発の金属量依存性 仲谷峻平(東京大学)
3月17日(金) 午前・G会場		11:18	P129b 降着流が原始星へ持ち込むエントロピーについて 國友正信(名古屋大学)
09:30	P118a 大質量星形成におけるフィードバックと星形成率 田中圭(フロリダ大学)	11:18	P130b ALMA 望遠鏡を用いたオリオン座分子雲中の原始星(Class I 天体)周囲の回転構造の研究 西海拓(京都産業大学)
09:42	P119b 大質量原始星周りでの HII 領域の形成進化とその観測的特徴 田中圭(フロリダ大学)	11:18	P131b Relationship between Chemical Evolution of Carbon-Chain Molecules and Physical Evolution in High-Mass Star-Forming Regions Kotomi Taniguchi(SOKENDAI / Nobeyama Radio Observatory)
09:42	P120b 超大質量星形成における円盤の化学進化と安定性 松木場亮喜(東北大学)	3月17日(金) 午後・G会場	
09:42	P121b 低金属量星形成過程で駆動される原始星ジェットの可能性 樋口公紀(九州大学)	13:30	P132a 若い原始惑星系円盤の大域的渦状腕の起源 富田賢吾(大阪大学)
09:54	P122a 大質量星形成における角運動量輸送 松下祐子(九州大学)	13:42	P133a ロスビー波不安定性によって形成する原始惑星系円盤上の巨大渦 小野智弘(京都大学)
10:06	P123a The impact of ionizing radiation on the formation of a supermassive star in the early Universe 鄭昇明(東京大学)	13:54	P134a 円盤と相互作用する中心星近傍の円盤・磁場構造に対する円盤磁場の影響 高棹真介(名古屋大学)

14:06	P135a Origin of Spiral Structures in the Disk around AB Aurigae: Multi-Epoch Subaru Observations Tomoyuki Kudo(NAOJ)	10:30	P146a 垂直な磁場に貫かれたフィラメント状分子雲の Jeans 不安定 花輪知幸(千葉大学)
14:18	P136a 分子雲収縮中における連星の種の時間進化 佐塚達哉(大阪大学)	10:42	P147a ALMA cycle 2 におけるオリオン KL 電波源 I の星周円盤とアウトフローの高空間分解能観測 廣田朋也(国立天文台)
14:30	P137a Class 0/I YSOs 中の自己重力円盤における見かけ上の質量減少と微惑星形成 塚本裕介(鹿児島大学)	10:54	P148a KaVA による大質量原始星候補天体 G357.967-0.163 に付随する水レーザージェットの長期 VLBI モニター観測 元木業人(山口大学)
14:42	P138a Resolving Envelope to Disk Transition around the Class 0 Protostar, IRAS04368 + 2557 坂井南美(理化学研究所)	11:06	P149a 大質量星形成領域 G9.62+0.20 からの 6.7 GHz メタノールレーザー放射に見られる周期強度変動要因の観測研究 佐藤宏樹(茨城大学)
14:54	P139a ALMA Cycle 2/3 のよる Class I 原始星 L1489 IRS の観測 崔仁士(東京大学)		
15:06	P140a Role of the magnetic field in $\leq 100$ AU: New insights on star formation revealed with ALMA Satoko Takahashi(NAOJ)		
3月18日(土) 午前・G会場			
09:30	P141a A Massive Dense Gas Cloud close to the Nucleus of the Seyfert galaxy NGC 1068 古屋玲(徳島大学)		
09:42	P142a Giant Molecular Cloud Collisions as Triggers of Star Cluster Formation Benjamin Wu(NAOJ)		
09:54	P143a 分子雲衝突の3次元高解像度数値シミュレーション 島和宏(北海道大学)		
10:06	P144a W3 Main における分子ガス構造と星団形成との関係の解明3 齋藤弘雄(筑波大学)		
10:18	P145a 磁場に垂直に貫かれたフィラメント状星間雲の動的収縮 富阪幸治(国立天文台)		

## P2. 星・惑星形成

3月15日(水) 午後・B会場		14:48	P213b 捕獲された微惑星の周惑星円盤内での分布 末次竜(産業医科大学)
13:00	P201a 原始惑星系円盤におけるダストの整列と偏光観測予測 田崎亮(京都大学)	14:48	P214b 巨大衝突による天王星の衛星形成 石澤祐弥(京都大学)
13:12	P202a HL Tau 周囲の原始惑星系円盤の磁気駆動降着 奥住聡(東京工業大学)	14:48	P215b 高速回転する褐色矮星の構造とその進化計算 藤澤幸太郎(早稲田大学)
13:24	P203a 永年重力不安定性の非線形発展2: 円盤の大局的進化 富永遼佑(名古屋大学)	3月16日(木) 午前・B会場	
13:36	P204a 低密度ダストの重力不安定による岩石微惑星形成 辰馬未沙子(東京大学/国立天文台)	09:30	P216a 微惑星衝突による形状進化: 弾性体SPH法による微惑星衝突の数値計算 杉浦圭祐(名古屋大学)
13:48	P205a 円盤形成段階での氷ダストの合体成長と氷微惑星形成 本間謙二(東京工業大学)	09:42	P217a 定常な周惑星円盤における微衛星形成 芝池諭人(東京工業大学)
14:00	P206a iSALEを用いた重力支配域での衝突計算 末次竜(産業医科大学)	09:54	P218a ケンタウルス族 Chariklo の環の構造 道越秀吾(筑波大学)
14:12	P207a 大規模N体計算による惑星形成: 100万粒子を用いた微惑星集積 押野翔一(国立天文台)	10:06	P219a 惑星散乱と木星型連惑星の形成 長沢真樹子(久留米大学)
14:24	P208a 地球型惑星形成における微惑星の衝突破壊の重要性 小林浩(名古屋大学)	10:18	P220a GJ1214 b におけるダスト雲鉛直分布の大気金属量に対する依存性 大野和正(東京工業大学)
14:36	P209b 原始惑星系円盤における電子加熱による磁気乱流の抑制: 成層構造を考慮した磁気流体数値計算 森昇志(東京工業大学)	10:30	P221b 様々な元素組成・温度構造を持つ太陽系外ガス惑星大気の平衡化学構造 野津翔太(京都大学)
14:36	P210b ダストからガスへの摩擦反作用を考慮した原始惑星系円盤ガスの粘性進化 金川和弘(シュチェチン大学)	10:30	P222b 氷成分に富む巨大氷惑星の赤外放射強度 黒崎健二(名古屋大学)
	P211c 原始惑星系円盤におけるガス円盤とダスト円盤の共進化 今枝佑輔(工学院大学)	10:30	P223b 短周期岩石惑星におけるNa主成分大気の流出構造推定 伊藤祐一(東京大学)
14:36	P212b デッドゾーン内側境界周辺における円盤構造とダストの濃集 植田高啓(東京工業大学)	10:42	P224a A High-contrast Polarimetry look of T Tau Circumstellar Environment Yi Yang(SOKENDAI/NAOJ)
		10:54	P225a Differential Grain Growth in the Spiral Structure of the LkH $\alpha$ 330 Disk Eiji Akiyama(NAOJ)

11:06	P226a 遷移円盤天体 HD 100453 周囲の円盤の高解像度撮像観測から示唆される傾いた内側円盤の存在 武藤恭之(工学院大学)	14:42	P237a 実視連星系の星周に付随する伴天体の探査 加藤則行(兵庫県立大学/天文科学センター(西はりま天文台))
11:18	P227b ASTE 望遠鏡を用いたデブリ円盤の [C I] <sup>3</sup> P <sub>1-3</sub> P <sub>0</sub> 観測 樋口あや(理化学研究所)	14:54	P238a すばる IRD の視線速度解析パイプラインと現実的な視線速度精度 平野照幸(東京工業大学)
11:18	P228b ホットジュピター HAT-P-54 b の近赤外線撮像観測 多葉田晴日(兵庫県立大学)	15:06	P239a 星震学を応用した系外トランジット惑星系のスピン軌道傾斜角の統計的解析 上赤翔也(東京大学)
	P229c ガリレオ衛星食を用いた木星上層大気の分光研究及び系外惑星観測への応用 市川隆(東北大学)	15:18	P240a MuSCAT によるトランジット惑星観測: 運用2年目の観測成果と今後の展望 成田憲保(東京大学)
	P230c 低質量星に対する CME の UV 放射供給による生命存在領域の拡大 大石碧(防衛大学校)		
3月16日(木)午後・B会場		3月17日(金)午前・B会場	
13:30	P231a ALMA 望遠鏡を用いた Sz 91 を取り巻く遷移段階円盤の詳細構造の解明 塚越崇(茨城大学)	09:30	P241a 多色同時測光による CVSO 30 のトランジット状減光の原因特定 鬼塚昌宏(総合研究大学院大学)
13:42	P232a Herbig Ae 型星 HD169142 原始惑星系円盤の ALMA Band 7 高解像度観測 本田充彦(久留米大学)	09:42	P242a K2 ミッションによって観測された天体の複数波長帯でのトランジット追観測 宮川浩平(東京工業大学)
13:54	P233a スパースモデリングによる原始惑星系円盤 HD142527 の超解像イメージング 山口正行(東京大学/国立天文台)	09:54	P243a Ks-band での WASP-12b のトランジット観測 笠嗣瑠(総合研究大学院大学)
14:06	P234a Tタウリ型星におけるダスト円盤消失タイムスケール 前嶋宏志(東京大学/宇宙航空研究開発機構)	10:06	P244a はやぶさ2の近赤外分光計(NIRS3)による系外惑星としての地球観測 市川隆(東北大学)
14:18	P235a 赤外線天文衛星「あかり」の遠赤外線全天観測による残骸円盤と中心星の年齢との関係の研究 小島拓也(東京大学/宇宙航空研究開発機構)	10:18	P245a 太陽系外惑星データベース ExoKyoto の開発 山敷庸亮(京都大学)
14:30	P236a 視線速度法による G, K 型巨星周りでの短周期惑星および複数惑星系の発見 宝田拓也(東京工業大学)		

## Q. 星間現象

3月15日(水) 午後・D会場		3月16日(木) 午前・D会場	
13:00	Q01a 野辺山 45-m 鏡と ALMA による近傍銀河に対するラインサーベイ観測 中島拓(名古屋大学)	09:30	Q13a 銀河宇宙線 Li の過剰と新星爆発放出物質 川中宣太(京都大学)
13:12	Q02a W3(OH) 領域の巨大分子雲スケールの化学組成 西村優里(東京大学)	09:42	Q14a スーパーバブル 30 Doradus C における衝撃波 - 星間ガス相互作用 山根悠望子(名古屋大学)
13:24	Q03a 大質量星形成領域 Sgr B2(M) における HC <sub>3</sub> N の同位体比の高精度決定 小山貴裕(東京理科大学)	09:54	Q15a 4個の若いシェル状 TeV ガンマ線超新星残骸における宇宙線陽子の定量 福井康雄(名古屋大学)
13:36	Q04a 低質量星形成領域 L1527 における長鎖炭素鎖分子の検出 荒木光典(東京理科大学)	10:06	Q16a GeV ガンマ線超新星残骸 HB 21 の X 線観測による過電離プラズマの発見 鈴木寛大(東京大学)
13:48	Q05a Diagnosis of dust crystallinity based on "Sum rule" 茅原弘毅(大阪産業大学)	10:18	Q17a 超新星残骸 W44 超高速成分の磁気流体シミュレーション 野村真理子(慶應義塾大学)
14:00	Q06a 国際宇宙ステーション「きぼう」利用簡易曝露実験装置 ExHAM を利用した炭素質ダストの宇宙曝露実験(3) 左近樹(東京大学)	10:30	Q18a Cassiopeia A 周辺星間ガスの観測的研究 稲葉哲大(名古屋大学)
14:12	Q07a 大質量星形成領域 S106 の未同定赤外(UIR)バンドの観測 木村智幸(東京大学)	10:42	Q19a 分子雲衝突による Spitzer Bubble の形成; S44, S121, S143 服部有祐(名古屋大学)
14:24	Q08a Looking at PAH Distribution and Anomalous Microwave Emission of the Lambda Orionis Region with AKARI Aaron C. Bell(University of Tokyo)	10:54	Q20a ATCA の電波観測に基づく W50/SS433 の偏波解析 酒見はる香(九州大学)
	Q09c 多環芳香族炭化水素(PAHs)と複数水素原子の反応メカニズム 福澄孝博(北海道大学)	11:06	Q21a フェルミ・ガンマ線宇宙望遠鏡によるカメレオン座分子雲領域の星間物質の探査 林克洋(名古屋大学)
14:36	Q10a 光学的厚みを考慮したフィッティングによる銀河系ダスト柱密度全天マップ作り 梨本真志(東北大学)	11:18	Q22b 星形成領域 Ophiuchus, Lupus I, Orion B, Serpens, S106 における近赤外赤化則 渡邊千夏(埼玉大学)
14:48	Q11a ダスト放射で探るマゼラン流における低金属量ガスの分布の解明 古賀真沙子(名古屋大学)	11:18	Q23b 近赤外線狭帯域フィルター観測による銀河面リッジ X 線放射構成種族の探査 森鼻久美子(兵庫県立大学)
	Q12c アンドロメダ銀河の伴矮小楕円体銀河における星間物質の大域的進化 釜谷秀幸(防衛大学校)	11:18	Q24b 2ダスト・1ガス三流体方程式を用いた大質量星からの輻射フィードバック 一色翔平(北海道大学)

3月16日(木) 午後・D会場			
13:30	Q25a 大マゼラン雲における水素原子ガス衝突による R136 形成 柘植紀節(名古屋大学)		Q37c 2 流体プラズマ波動乱流中での粒子加速過程について 格和純(東北大学)
13:42	Q26a 双子スターバースト領域 NGC6334 と NGC6357 による分子雲と星形成の観測的研究 横山景子(名古屋大学)	15:06	Q38a 相対論的衝撃波で励起される大振幅電磁波の作用 岩本昌倫(東京大学)
13:54	Q27a 野辺山 45 m Cygnus-X CO サーベイ : 1. DR21/W75N 領域における分子雲衝突による星形成トリガーの可能性 西村淳(名古屋大学)	15:18	Q39a 磁場散逸を含んだ相対論的磁気流体流れの減速について 田中周太(甲南大学)
14:06	Q28b 野辺山 45 m Cygnus-X CO サーベイ : 2. C <sup>18</sup> O core properties 竹腰達哉(国立天文台)	15:30	Q40a Thermal Synchrotron Radiation By Double Tearing Mode Reconnection - Application to High-Energy Flare Phenomena 高本亮(東京大学)
14:06	Q29b 野辺山 45 m Cygnus-X CO サーベイ : 3. CN データから探る分子の光解離反応 山岸光義(宇宙航空研究開発機構)	3月17日(金) 午前・D会場	
14:06	Q30b 野辺山 45m 望遠鏡を用いた銀河系における最遠方分子雲の検出 松尾光洋(鹿児島大学/国立天文台)	09:30	Q41a An origin of high velocity compact clouds: Dynamical signature of intermediate mass black holes Guo Yansong(Nagoya Univ.)
14:18	Q31a FUGIN: W51 領域における CO multi-line 解析 (2) 藤田真司(筑波大学/国立天文台)	09:42	Q42a 銀河系核周円盤近傍における複数の小型高速度コンパクト雲の発見 竹川俊也(慶應義塾大学)
14:30	Q32a FUGIN: シェル状の速度構造をもつ分子ガス 津田裕也(明星大学)	09:54	Q43a 最新の分子輝線データに基づく高速度コンパクト雲 CO 0.02-0.02 の新解釈 岩田悠平(慶應義塾大学)
14:42	Q33a FUGIN: 銀河系外縁部 (3) 松尾光洋(鹿児島大学/国立天文台)	10:06	Q44a VERA による Sgr B2 領域の位置天文観測 酒井大裕(東京大学)
14:54	Q34b FUGIN : 大質量星形成領域 W33 の CO 輝線観測 III 河野樹人(名古屋大学)	10:18	Q45a セファイドを用いた銀河面偏光観測 善光哲哉(京都大学)
14:54	Q35b 銀河系ディスクへの低温ガス降着に伴う宇宙線加速と非熱的放射 井上進(理化学研究所)	10:30	Q46a 銀河系中心領域における磁気活動の解明 柿内健佑(名古屋大学)
14:54	Q36b 無衝突磁気リコネクションにおける電子軌道解析 銭谷誠司(国立天文台)	10:42	Q47a 階層的ベイズ推定法を用いた銀河系中心分子雲の物理状態/化学組成の測定 田中邦彦(慶應義塾大学)

## Q. 星間現象

10:54	Q48a	Formation of Galactic Prominence in Galactic Central Region Chih-Han Peng(Chiba Univ.)	15:06	Q60a	X線天文衛星「すざく」による超新星残骸 CTB1 の観測 桂川美穂(東京大学 / 宇宙航空研究開発機構)
11:06	Q49a	分子雲衝突による銀河系中心 50km/s 分子雲での大質量星形成 上原顕太(東京大学)	15:18	Q61a	NuSTAR/Suzaku による最も明るいガンマ線超新星残骸 N132D の観測 馬場彩(東京大学)
11:18	Q50a	CO 多輝線観測による Proto-superbubble 候補天体 L = -1.2° 領域の詳細研究 辻本志保(慶應義塾大学)	15:30	Q62b	「すざく」衛星による地球周辺からの太陽風電荷交換 X 線イベントの系統探査 伊師大貴(首都大学東京)
11:30	Q51b	銀河系中心 50km/s 分子雲で発見された分子雲フィラメント 上原顕太(東京大学)			
3月17日(金) 午後・D会場					
13:30	Q52a	中性子星合体起源の r プロセス元素 宇宙線 小宮悠(東京大学)			
13:42	Q53a	「すざく」衛星による LOOP-I/NPS 構造の系統探査 秋田誠博(早稲田大学)			
13:54	Q54a	超新星残骸 Cassiopeia A 北東ジェット X線放射の詳細解析 池田拓馬(立教大学)			
14:06	Q55a	X線天文衛星「すざく」による超新星残骸 W28 (G6.4-0.1) の観測 尾近洗行(京都大学)			
14:18	Q56a	X線天文衛星「すざく」による超新星残骸 G306.3-0.9 の観測 立花克裕(京都大学)			
14:30	Q57a	超新星残骸 W44 からの拡散硬 X 線成分の発見 内田裕之(京都大学)			
14:42	Q58a	すざく衛星を用いた超新星残骸 W49B の再結合優勢プラズマの観測 山内茂雄(奈良女子大学)			
14:54	Q59a	超新星残骸 IC 443 からの過電離プラズマの成因 松村英晃(京都大学)			

## R. 銀河

3月15日(水) 午後・C会場		3月16日(木) 午前・C会場	
13:00	R01a 「あかり」赤外線全天データで探る早期型銀河ダストの無バイアスな描像 金田英宏(名古屋大学)	09:30	R12a Stellar mass and star formation rate relation of infrared-bright dust-obscured galaxies selected with AKARI far-infrared all-sky survey 鳥羽儀樹(ASIAA)
13:12	R02a 「あかり」赤外線全天観測による早期型銀河の星形成の系統的研究 國生拓摩(名古屋大学)	09:42	R13a 近赤外から遠赤外線広帯域観測に基づくヒクソン・コンパクト群構成銀河の活動度の調査 池内綾人(東京大学)
13:24	R03a 「あかり」赤外線分光観測で探る星形成銀河における炭化水素ダストの変成 近藤晶乃(名古屋大学)	09:54	R14a 近赤外線吸収観測が示唆する超高光度赤外線銀河内部の星形成領域における苛烈な紫外線環境 道井亮介(東京大学)
13:36	R04a 「あかり」中間赤外線の減光を利用したNGC2403の銀河ハロー領域におけるダスト質量の推定 鵜飼壮太(名古屋大学)	10:06	R15a Shock-induced Starbursts in the Nearby Merging LIRG VV 114 with ALMA 齊藤俊貴(東京大学/国立天文台)
13:48	R05a 銀河系内拡散光の観測で探る星間ダストの散乱特性 佐野圭(東京大学)		R16c 衝突銀河 NGC 3256 における分子ガスアウロフローのRADEXモデリング 道山知成(総合研究大学院大学/国立天文台)
14:00	R06a Emergence of a stellar cusp by a dark matter cusp in a low-mass compact ultra-faint dwarf galaxy 井上茂樹(東京大学)	10:18	R17a Development of the Multi-Parameter Star Formation Law: II Shinya Komugi(Kogakuin University)
14:12	R07a 矮小銀河の化学力学進化から探る銀河内での重元素の混合効率 平居悠(東京大学)		R18c 銀河の性質と分子ガスの中心集中度の関係:統計的研究 II 隈井泰樹(熊本学園大学)
14:24	R08b 星種族による金属量分布の違いから探るSculptor dSphの化学進化 本間英智(国立天文台)	10:30	R19b 近傍LIRGの星形成活動 大橋宗史(東京大学)
14:24	R09b 初代銀河の衝突で誘起される球状星団形成について 荒田翔平(東北大学)	10:30	R20b 水素再結合輝線強度比異常が示唆する超高光度赤外線銀河の高密度星形成 矢野健一(東京大学/宇宙航空研究開発機構)
14:24	R10b 鉄K殻輝線精密診断による銀河系拡散X線放射の起源 信川正順(奈良教育大学)	10:30	R21b Cosmic-Ray Driven Galactic Winds from an Ultraluminous Galaxy Akimi Fujita(Shinshu University)
14:36	R11a 銀河系バルジ領域における拡散X線強度と近赤外星数面密度の空間分布比較 長友竣(京都大学)	10:42	R22a 銀河風の遷音速モデルと星形成銀河への応用 五十嵐朱夏(筑波大学)

## S. 活動銀河核

10:54	R23a 新たなディスクレーサーとしての OH/IR 星の VLBI 位置天文観測 中川亜紀治 (鹿児島大学)	3月15日(水)午後・A会場
	R24c 制限付き Post-Newtonian の N 体シミュレーションコード開発 立川崇之 (早稲田大学)	
		13:00 S01a 高感度 VLBI 電波観測による M87 ジェットの spine-sheath 構造の検出 秦和弘 (国立天文台)
		13:12 S02a 43/86 GHz 周波数帯での VLBI 観測とスパースモデリングを用いた M87 中心核構造の研究 田崎文得 (国立天文台)
		13:24 S03a 活動銀河 M87 の相対論的ジェットからの電波放射 高橋和也 (東北大学)
		13:36 S04a 電波銀河 NGC 1275 の X 線と可視でのモニター観測 志岐健成 (広島大学)
		13:48 S05a 多周波電波モニターで探るブレーザー DA55 のガンマ線フレア放射領域 新沼浩太郎 (山口大学)
		14:00 S06a ジェットを伴う潮汐破壊現象におけるガンマ線放射の探索と放射機構の解明 田中康之 (広島大学)
		14:12 S07a ブレーザー PKS 1749+096 の可視偏光観測から探るジェットの磁場構造 植村誠 (広島大学)
		14:24 S08a Disk-Jet Connection in Active Supermassive Black Holes 井上芳幸 (宇宙航空研究開発機構)
		14:36 S09a 相対論的衝撃波中の宇宙線加速における加速時間の理論研究 野上雅弘 (青山学院大学)
		14:48 S10a ブレーザーにおける Hard Sphere 的粒子加速の観測的傍証 浅野勝晃 (東京大学)

3月16日(木) 午前・A会場		3月16日(木) 午後・A会場	
09:30	S11a 活動銀河核ウィンドにおける宇宙線加速・非熱的放射と銀河フィードバックへの示唆 井上進(理化学研究所)	11:06	S23b 3次元モンテカルロ輻射輸送計算による Circinus galaxy の分子ガス構造の解明 福重亮佑(鹿児島大学)
09:42	S12a クェーサーのアウトフローに見られる時間変動傾向の起源 堀内貴史(信州大学)	11:06	S24b 高感度 VLBI 観測から探る2型セイファート銀河 IC2560 中心核の回転メーザー円盤 伊佐見薫(筑波大学)
09:54	S13a IRAS 08572+3915 分光観測が示唆する分子アウトフローの起源の多様性 中川貴雄(宇宙航空研究開発機構)	11:06	S25b クェーサー 3C 323.1 の紫外-可視域連続光スペクトル中の偏光成分の起源 小久保充(東京大学)
10:06	S14a AGN 輻射駆動噴水モデル: Circinus galaxy での検証 和田桂一(鹿児島大学)	11:18	S26b 活動銀河中心核における狭輝線領域の物理状態 米倉健介(鹿児島大学)
10:18	S15a The Second Galactic Center Black Hole?; Possible Detection of Accreting Ionized Gas onto the Galactic Center IRS13E Masato Tsuboi(宇宙航空研究開発機構)	11:18	S27b 理論モデルから予言される活動銀河核の“観測可能割合” 白方光(北海道大学)
10:30	S16a 高速度コンパクト雲 CO-0.40-0.22 中における点状電波源の発見 岡朋治(慶應義塾大学)	11:18	S28b Subaru / Hyper Suprime-Cam を用いた高赤方偏移における低光度クェーサー探査 仁井田真奈(愛媛大学)
10:42	S17b 低質量超巨大ブラックホールの可視光度変動 谷口由貴(東京大学)	S29c OJ 287 の 2015 年アウトバースト時における電波強度変動 澤田-佐藤聡子(鹿児島大学)	
10:42	S18b 電波銀河 Pictor A の西ホットスポットの中間赤外線超過 磯部直樹(東京工業大学)	S30c BALQSO 視線上における intrinsic NAL の探査 伊東大輔(信州大学)	
10:42	S19b VLBI 観測による High-z クェーサーの構造研究 古谷庸介(山口大学)	S31c High-resolution imaging of H <sub>2</sub> O maser towards the type 2 Seyfert NGC1068 Yoshiaki Hagiwara(Toyo University)	
10:54	S20b NGC 1275 の新しいサブパーセクスケールのジェットの発見と降着円盤 藤田裕(大阪大学)		
10:54	S21b 自己無矛盾なラインフォース駆動型円盤風モデルの構築 野村真理子(慶應義塾大学)		
10:54	S22b 磁気張力による活動銀河核アウトフローのフィードバック効率の上昇 朝比奈雄太(国立天文台)		
		13:30	S32a 「ひとみ」による NGC 1275 の観測: 初の活動銀河核 Fe-K $\alpha$ 輝線の精密分光 野田博文(東北大学)
		13:42	S33a ひじょうに大きな吸収を受けた活動銀河核の「すざく」広帯域 X 線スペクトル系統解析 谷本敦(京都大学)

## T. 銀河団

13:54	S34a	活動銀河核から放射される X 線の時間変動と時間遅れ (ラグ) の解釈 水本岬希 (宇宙航空研究開発機構 / 東京大学)	3月15日 (水) 午後・E 会場	13:00	T01a	「ひとみ (ASTRO-H)」SXS によるペルセウス座銀河団中心部の共鳴散乱 II 佐藤浩介 (東京理科大学)
14:06	S35a	SWIFT J2127.4+5654 における時間変動を用いたモデル依存しない成分分解 三宅克馬 (東京大学)		13:12	T02a	X 線天文衛星「ひとみ」によるペルセウス座銀河団の温度構造解析 中島真也 (宇宙航空研究開発機構)
14:18	S36a	セイファート銀河の広帯域 X 線スペクトル変動に対する統一的な解釈 (2) 楠絵莉子 (東京大学 / 宇宙航空研究開発機構)		13:24	T03a	X 線天文衛星「ひとみ」によるペルセウス座銀河団の重元素量測定とその解釈 山口弘悦 (NASA/GSFC)
14:30	S37a	狭輝線 1 型セイファート銀河 NGC 4051 の X 線時間変動解析 II 清野愛海 (東京大学)		13:36	T04a	「ひとみ」によるペルセウス銀河団からの 3.5keV ライン X 線の探査 田村隆幸 (宇宙航空研究開発機構)
14:42	S38a	eROSITA による北黄極ディープサーベイ領域の隠された活動的銀河核の探査計画 松原英雄 (宇宙航空研究開発機構)		13:48	T05a	「ひとみ」SXS 精密分光による銀河団プラズマの新 X 線スペクトル構造探査 澤田真理 (青山学院大学)
14:54	S39a	3-500 $\mu$ m IR properties of the 70-month Swift/BAT AGN Kohei Ichikawa (NAOJ, Columbia University)		14:00	T06b	「ひとみ」によるペルセウス座銀河団のガス速度測定: (1) 速度構造 一戸悠人 (首都大学東京)
15:06	S40a	「あかり」衛星遠赤外線全天探査で探る超大光度赤外線銀河種族 秋山正幸 (東北大学)		14:00	T07b	「ひとみ」によるペルセウス座銀河団のガス速度測定: (2) 輝線の非ガウス性とイオン温度への制限 上田周太郎 (宇宙航空研究開発機構)
15:18	S41a	次世代赤外線天文衛星 SPICA による活動銀河核研究 大藪進喜 (名古屋大学)		14:00	T08b	「すざく」衛星による Abell2163 銀河団外縁部の詳細な解析 伊東雅史 (東京理科大学)
15:30	S42a	中性水素起源の 21cm 線観測によるクェーサーの数分布の推定と観測可能性 竹内太一 (名古屋大学)		14:12	T09a	「すざく」で観測した近傍銀河団・銀河群のエントロピー分布 佐々木亨 (東京理科大学)
				14:24	T10a	「すざく」による Abell 262 銀河団内の鉄質量と銀河分布の方向依存性 菅野祐 (東京理科大学)

## U. 宇宙論

3月16日(木) 午前・E会場		3月15日(水) 午後・H会場			
09:30	T11a	Joint Strong and Weak Lensing Analysis of the Massive Cluster J0850 Kenneth Wong(NAOJ)	13:00	U01a	ボイドによる宇宙論の検証 I - 赤方偏移変形の線形モデルとシミュレーションによる検証 - 西澤淳(名古屋大学)
09:42	T12a	速度分散を用いた HSC サーベイ銀河団の質量測定 濱端亮成(東京大学)	13:12	U02a	宇宙論的ボイド形成におけるダークエネルギーの影響 遠藤隆夫(名古屋大学)
09:54	T13a	HSC-SSP サーベイにおける可視銀河団サンプルの構築 大栗真宗(東京大学)	13:24	U03a	ボイド形状の赤方偏移進化 簗口睦美(名古屋大学)
10:06	T14a	Hyper Suprime-Cam データに基づいた超銀河団 CL0016 中にある銀河とダークマターの関係 桜井準也(総合研究大学院大学)	13:36	U04a	宇宙定数問題は人間原理で説明できるか? 銀河形成モデルによる検証 須藤貴弘(東京大学)
10:18	T15a	FRB を使った銀河団外周部 WHIM の探査 藤田裕(大阪大学)		U05c	宇宙定数 $\Lambda$ による光の曲がり と Gauss-Bonnet の定理 荒木田英禎(日本大学)
10:30	T16a	すざく衛星を用いた A222/223 ブリッジ領域におけるミッシングバリオン探査 服部詩穂(奈良女子大学)	13:48	U06a	POLARBEAR-1 実験による重力レンズ起源 B モード偏光観測の最新結果と米国の地上将来 CMB 実験計画 茅根裕司(カリフォルニア大学)
10:42	T17a	ALMA によるスニヤエフ・ゼルドビッチ効果の初観測 北山哲(東邦大学)	14:00	U07a	Weak lensing effect と CMB 偏光揺らぎに対する原初磁場の影響 山崎大(茨城大学)
	T18c	Chandra による銀河団 SPT-CL J0619-5802 の X 線対応天体の発見 宮崎諒平	14:12	U08a	宇宙マイクロ波背景放射によるアインシュタインの等価原理の検証 田代寛之(名古屋大学)
10:54	T19a	A1835 銀河団のクールコア中に埋もれていた渦巻構造の発見 上田周太郎(宇宙航空研究開発機構)	14:24	U09a	Axion inflation with interference and CMB anomaly 飯田遼(名古屋大学)
11:06	T20a	すざく衛星による Triangulum Australis 銀河団の超高温領域と非熱的 X 線放射の探査 鷹箸颯太(山形大学)	14:36	U10a	宇宙磁場が熱的 SZ 効果を通して CMB 温度の非等方性に与える影響 箕田鉄兵(名古屋大学)
11:18	T21b	衝突銀河団 CIZA J1358.9-4750 領域の広がった電波放射の探査 赤堀卓也(鹿児島大学)	14:48	U11a	On the cross-correlation between the thermal Sunyaev-Zel'dovich effect and local galaxy density: Constraining the local universe 真喜屋 龍(Kavli IPMU, Max Planck Institute for Astrophysics)
11:18	T22b	Subaru/HSC サーベイ領域にある重量級銀河団の X 線観測による質量推定 II 宮岡敬太(広島大学)			

## V1. 観測機器

3月16日(木) 午前・H会場		3月17日(金) 午前・I会場			
09:30	U12a	バリオン音響振動の再構築法による宇宙大規模構造のアンチエイジング 日影千秋(東京大学)	10:30	V101a	LMT 50m 鏡用 2m 受信機システムの開発と爆発的星形成銀河、巨大ブラックホールの研究 II: 全体進捗 川邊良平(国立天文台)
09:42	U13a	バリオンダークマター間の超音速相対運動を含む暗黒時代の構造形成 浅羽信介(名古屋大学)	10:42	V102a	NASCO (NANTEN2 Super CO survey as Legacy) の進捗報告(2) 大浜晶生(名古屋大学)
09:54	U14a	重元素の超微細構造線を用いた中高温銀河間ガスの観測可能性について 渡邊歩(筑波大学)	10:54	V103a	NASCO 用 2 周波同時観測マルチビーム受信機(1): クライオスタートの詳細設計と 115 GHz 帯受信機の試作 堤大陸(名古屋大学)
10:06	U15a	A robust way to measure the galaxy clustering statistics up to Nyquist wavenumber with Fast Fourier Transform 斎藤俊(Max-Planck-Institut für Astrophysik, Germany)	11:06	V104b	NASCO 用 2 周波同時観測マルチビーム受信機(2): 230GHz 帯受信機の開発 栗田大樹(名古屋大学)
10:18	U16a	SDSS 銀河団カタログの弱重力レンズ効果と数値宇宙論の比較による銀河団質量の検証 II 村田龍馬(東京大学)	11:06	V105b	NASCO に向けた NANTEN2 制御系の開発: 3. Google Cloud Platform を用いた File I/O 制御系の検討 西村淳(名古屋大学)
10:30	U17a	地球磁場を用いたアクシオン様粒子起因のX線放射の探索 山本亮(宇宙航空研究開発機構)	11:06	V106b	LMT50m 鏡用 2mm 受信機システムと爆発的星形成銀河、巨大ブラックホールの研究 III: 開発進捗 酒井剛(電気通信大学)
	U18c	SDSS と HSC を組み合わせた重力レンズクエーサー探査 加用一者(東京工科大学)	11:18	V107b	新規デバイス開発のためのメンブレン作製技術の開発とその評価 江崎翔平(国立天文台)
10:42	U19a	A を用いたアインシュタインの相対性理論について。A とは地表のエネルギーを 1 とする場合のエネルギーの比です。光子がブラックホールに吸い込まれる原理。どの軌道で吸い込まれるか。 小堀しづ	11:18	V108b	冷却低雑音アンプの広帯域ノイズパラメータ評価系の構築 高橋宏明(電気通信大学)
10:54	U20b	電磁気がマイナスの宇宙からビッグバンになり、インフレーションに成り背景放射に成った過程と宇宙の形と、インフレーションが存在した事の証拠 小堀しづ	11:18	V109b	テラヘルツ帯実験室分子分光計の開発 千葉雄太郎(東京大学)
	U21c	クォークの軌道エネルギーと粒子の中の回転 小堀しづ		V110c	テラヘルツ光子計数型検出器の基礎開発-II 江澤元(国立天文台)

3月17日(金) 午後・I会場		15:30	V124b 山口第二電波望遠鏡に搭載する6-9 GHz帯受信機システムの開発 金澤翔(山口大学)
13:30	V111a CMB偏光観測衛星LiteBIRD計画の現状 堂谷忠靖(宇宙航空研究開発機構)		V125c 大学VLBI連携の現状と将来 藤沢健太(山口大学)
13:42	V112a CMB偏光観測衛星LiteBIRDにおける系統誤差の研究IX 永田竜(高エネルギー加速器研究機構)		V126c VLBI用ソフトウェア関連処理システムの開発と定常運用化 小山友明(国立天文台)
13:54	V113b LiteBIRD搭載光学系のトレードオフ検討 鹿島伸悟(東京大学)		V127c 気球VLBIミッションの検討VII 土居明広(宇宙航空研究開発機構)
13:54	V114b 臼田宇宙空間観測所64mアンテナの電波天文観測に向けた性能評価 藏原昂平(鹿児島大学)		V128c 国際コンソーシアムによる野辺山電波ヘリオグラフの運用2 増田智(名古屋大学)
13:54	V115b 高萩/日立32m電波望遠鏡の整備状況(15) 米倉覚則(茨城大学)		V129c 電波合成型ミリ波アンテナ2.4mユニットアンテナの試作と評価1 春日隆(法政大学)
14:06	V116a 3.8m電波望遠鏡を用いたVLBI観測 高橋諒(大阪府立大学)	3月18日(土) 午前・I会場	
14:18	V117a 野辺山45m鏡搭載20/40GHz帯同時観測用周波数フィルタの開発 岡田望(大阪府立大学)	09:30	V130a ALMAの運用(10)と拡張計画(4) 井口聖(国立天文台)
14:30	V118a 高感度大気水蒸気モニターの開発-つくば市における冬季観測 長崎岳人(高エネルギー加速器研究機構)	09:42	V131a マイクロ波フォトリニクス信号を用いた広帯域周波数シンセサイザ 木内等(国立天文台)
14:42	V119a きゃらばん・サブミリとVLBIデータ校正の確認法III 三好真(国立天文台)	09:54	V132a 周波数変調局部発振器による新しいミリ波サブミリ波分光法:V.ASTEへのFMLOシステムの搭載・試験観測 谷口暁星(東京大学)
14:54	V120a サブミリ波VLBIを用いたHybrid Mappingによるブラックホールシャドウの構造復元の定量的評価 倉持一輝(東京大学/国立天文台)	10:06	V133a DESHIMA:超伝導オンチップ・フィルターバンクを用いたサブミリ波超広帯域分光器の研究開発 遠藤光(Delft University of Technology)
15:06	V121a 電波点回折干渉計(II) 奥村大志(筑波大学)	10:18	V134a ASTE搭載用多色連続波カメラの開発:(12)プロジェクト進捗 大島泰(国立天文台)
15:18	V122a 山口干渉計の狭帯域試験観測 藤沢健太(山口大学)	10:30	V135a ASTE搭載用多色連続波カメラの開発:(13)光学系の評価 竹腰達哉(国立天文台)
15:30	V123b 山口干渉計の構築状況 青木貴弘(山口大学)		

## V2. 観測機器

10:42	V136a ASTE 搭載用多色連続波カメラの開発 発：(14) キャリブレーション 大田原一成(国立天文台)	3月16日(木) 午後・E会場	
10:54	V137a ASTE 搭載用多色連続波カメラの開発 発：(15) 科学データ解析 泉奈都子(国立天文台)	13:30	V201a 可視偏光サーベイ計画 SGMAP: かなた望遠鏡での実施検討 川端弘治(広島大学)
11:06	V138a Developments in CASA 5.0. and Processing Single-Dish data Erik Muller(NAOJ)	13:42	V202a 明野 50cm 可視光望遠鏡の 2016 年度運用実績 伊藤亮介(東京工業大学)
11:18	V139a 宇宙マイクロ波背景放射観測実験 POLARBEAR-2 開発の状況 金子大輔(東京大学)	13:54	V203a X線フレアの可視光追観測システムの構築 河合広樹(中央大学)
11:30	V140a 宇宙マイクロ波背景放射 B モード偏光観測実験 POLARBEAR-2 のレシーバーシステムの光学試験 濱田崇穂(東北大学)	14:06	V204b HONIR 用新検出器読み出しシステムのノイズ改善に向けた研究 森裕樹(広島大学)
11:42	V141a 宇宙マイクロ波背景放射偏光観測実験 POLARBEAR-2 における焦点面温度制御試験 田邊大樹(総合研究大学院大学)	14:06	V205b 太陽観測専用小型分光器の製作 田邊実佳(茨城大学)
		14:06	V206b 鹿児島大学 1m 光・赤外線望遠鏡に搭載する近赤外線 3 バンド同時撮像装置の開発 西森健文(鹿児島大学)
		14:18	V207a 近赤外高分散分光器 WINERED:NTT 搭載時における総合性能の評価 大坪翔悟(京都産業大学)
		14:30	V208a 地上中間赤外線スロースキャン観測の提案 大澤亮(東京大学)
		14:42	V209b HSC データ解析パイプライン: ゴーストと人工衛星痕のマスク機構開発 古澤久徳(国立天文台)
		14:42	V210b HSC 戦略枠観測データの世界公開(パブリックリリース) 山田善彦(国立天文台)
		14:42	V211b HSC 画像からの自動ゴースト除去(II) 小宮山裕(国立天文台)
		14:54	V212a すばる望遠鏡レーザートモグラフィ補償光学用波面センサーユニットの開発 渡邊達朗(東北大学)
		15:06	V213b 惑星用補償光学系の開発の進捗状況(2) 渡辺誠(岡山理科大学)

	V214c 多天体補償光学に向けた開ループ制御補償光学系での波面補償の性能評価 鈴木元気(東北大学)	10:18	V225a SPICA(次世代赤外線天文衛星)計画の推進と冷却系 芝井広(大阪大学)
15:06	V215b 埼玉大学望遠鏡・装置制御系“SaCRAシステム”による自動観測・解析化の試み 柴田吉輝(埼玉大学)	10:30	V226a 宇宙赤外線背景放射観測のロケット実験 CIBER-2:望遠鏡の環境試験 高橋葵(総合研究大学院大学/関西学院大学)
15:06	V216b 木曾超広視野高速 CMOS カメラ Tomo-e Gozen 実機の開発 一要素試験と詳細設計 酒向重行(東京大学)	10:42	V227b Mission Concept Studies for the 2020 Decadal Survey; Origins Space Telescope 左近樹(東京大学)
15:18	V217a 木曾超広視野高速 CMOS カメラ Tomo-e Gozen の即時データ解析とデータ管理 一木真(東京大学)	10:42	V228b 火星衛星サンプルリターン計画 Martian Moons eXploration 尾崎正伸(宇宙航空研究開発機構)
3月17日(金) 午前・E会場			V229c ロケット実験 CIBER-2:望遠鏡の環境試験の詳細報告 児島智哉(関西学院大学)
09:30	V218a Nano-JASMINE と小型 JASMINE の全体的進捗状況 郷田直輝(国立天文台)	10:42	V230b JVO ポータル開発の進捗 白崎裕治(国立天文台)
09:42	V219b JASMINE における星像高精度位置決定の実証 矢野太平(国立天文台)	10:54	V231a 地球型惑星検出のためのすばる赤外線ドップラー分光器:12 小谷隆行(アストロバイオロジーセンター/国立天文台/総合研究大学院大学)
09:42	V220b 小型 JASMINE 光学系に最適な性能評価関数 2 鹿島伸悟(自然科学研究機構/国立天文台)	11:06	V232a 赤外線視線速度測定装置 IRD の性能検証:検出器と視線速度安定性の評価 葛原昌幸(アストロバイオロジーセンター/国立天文台)
09:42	V221b 小型 JASMINE 衛星の検出器ボックス開発 上田暁俊(国立天文台)	11:18	V233a 近赤外ドップラー装置の偏光特性と偏波解消器の開発 小久保幸(東京農工大学)
09:54	V222a Nano-JASMINE と小型 JASMINE のデータ解析の準備状況 山田良透(京都大学)		
	V223c Nano-JASMINE:現状と FDCCD のアルファ線照射実験 小林行泰(国立天文台)		
10:06	V224a 「あかり」近赤外線グリズム分光観測における二次光影響の補正:液体ヘリウム枯渇後(2) 馬場俊介(宇宙航空研究開発機構/東京大学)		

3月17日(金) 午後・E会場		3月18日(土) 午前・E会場	
13:30	V234a 大型低温重力波望遠鏡 KAGRA: 全体報告 高橋弘毅(長岡技術科学大学)	09:30	V246a 東京大学アタカマ天文台 TAO6.5m 望遠鏡プロジェクトの進捗状況 吉井讓(東京大学)
13:42	V235a TMT 計画 ― 進捗報告 臼田知史(国立天文台)	09:42	V247a 近赤外線 2 色同時多天体分光撮像装置 SWIMS の検出器駆動システムの開発と評価 寺尾恭範(東京大学)
13:54	V236a TMT 計画 - 超大型望遠鏡本体の詳細設計 II 杉本正宏(国立天文台)	09:54	V248a 中間赤外線観測装置 MIMIZUKU の開発状況と試験観測計画 内山允史(東京大学)
14:06	V237a TMT 計画― 主鏡フルサイズセグメントの量産 山下卓也(国立天文台)	10:06	V249a 中間赤外線観測装置 MIMIZUKU 用 5 $\mu$ m-cutoff HAWAII-1RG 検出器の駆動試験 山口淳平(東京大学)
14:18	V238a TMT 第一期観測装置 IRIS 撮像系の開発: 進捗とレビュー報告 鈴木竜二(国立天文台)	10:18	V250a 次世代中間赤外線装置における低温チョッピング実現に向けた超伝導リニアモーターの開発 毛利清(東京大学)
14:30	V239a 3 点法とロボットアームによる自由曲面計測システムの開発 栗田光樹夫(京都大学)		
14:42	V240a 大型自由曲面素子の表面計測を可能にする小型干渉計 今西萌仁加(京都大学)		
14:54	V241a 球面主鏡・副鏡をもつアプラナティックな望遠鏡 木野勝(京都大学)		
15:06	V242a 汎用 2 次元検出器データ取得システム MESSIA6 と共同購入 中屋秀彦(国立天文台)		
15:18	V243b 遠赤外線イメージセンサーに向けた極低温動作 32x32CTIA マルチプレクサの設計 馬場俊介(宇宙航空研究開発機構/東京大学)		
15:18	V244b 赤外線光学材料の低温減光係数測定のための高精度 FTIR システムの開発と初期測定結果 加地紗由美(京都産業大学)		
15:18	V245b 西はりま天文台「なゆた望遠鏡」の運用 伊藤洋一(兵庫県立大学)		

## V3. 観測機器

3月15日(水) 午後・I会場		15:00	V313b 太陽軟X線撮像分光観測に向けた高速 CMOS イメージングセンサー読み出しシステムの開発 石川真之介(宇宙航空研究開発機構)
13:00	V301a 軟X線から硬X線の広帯域を高感度で撮像分光する小型衛星計画 FORCE の現状(4) 森浩二(宮崎大学)	3月16日(木) 午前・I会場	
13:12	V302a FORCE 高角度分解能硬X線望遠鏡に向けた多層膜とSi基板の散乱測定 中野慎也(名古屋大学)	09:30	V314a 重力波同期X線突発天体を探す超小型衛星計画の衛星搭載機器開発へ向けた現状 澤野達哉(金沢大学)
13:24	V303a SOI技術を用いた新型X線撮像分光器の開発 20: サブピクセルレベルでのX線性能評価(2) 玉澤晃希(東京理科大学)	09:42	V315a 超小型衛星搭載を目指した重力波同期X線撮像検出器 T-LEX の開発 - バーストリガーシステム - 加川保昭(金沢大学)
13:36	V304a SOI技術を用いた新型X線撮像分光器の開発 21: 大面積X線 SOIピクセル検出器の性能評価 林秀輝(京都大学)	09:54	V316a 将来のミッションへの搭載を目指した広視野小型全天モニターの研究 大下紗百合(宇宙航空研究開発機構/東京大学)
13:48	V305a 高角度分解能X線望遠鏡の概念検討 Yoshitomo Maeda(宇宙航空研究開発機構)	10:06	V317a 軟X線広天域カメラの開発状況 富田洋(宇宙航空研究開発機構)
14:00	V306a ダークバリエオン探査衛星計画 DIOS 搭載4回反射型X線望遠鏡開発の現状 関大策(名古屋大学)	10:18	V318a 軟X線広天域監視装置 iWF-MAXI 用X線 CCD 検出器の基本性能と放射線劣化の評価 今井駿佑(東京工業大学)
14:12	V307a 防湿フィルムを接着した炭素繊維強化プラスチックのX線反射鏡開発 横田翼(名古屋大学)	10:30	V319b Wide-Field MAXI 計画広天域硬X線観測モニターの開発 杉田聡司(東京工業大学)
14:24	V308b 炭素繊維強化プラスチック(CFRP)を用いたX線望遠鏡の開発 一吸湿対策ならびに位置決め法の開発一 粟木久光(愛媛大学)	10:30	V320b ISS 搭載ガンマ線バーストの硬X線偏光観測計画 LEAP の現状 中森健之(山形大学)
14:24	V309b X線多重像撮像計、干渉計の概念検討 林田清(大阪大学)	10:30	V321b MAXI アーカイブの開発と公開 海老沢研(宇宙航空研究開発機構)
14:24	V310b X線多重像干渉計開発のための基礎実験 川端智樹(大阪大学)	10:42	V322a CALET ガンマ線バーストモニター(CGBM)の軌道上における観測性能 中平聡志(宇宙航空研究開発機構)
14:36	V311a 太陽X線観測用超高精度 Wolterミラーの研究進捗 坂尾太郎(宇宙航空研究開発機構)	10:54	V323a SMILE-II+ 気球実験計画と軟ガンマ線撮像分光器の改良 水村好貴(京都大学)
14:48	V312a 観測ロケットを用いた軟X線域における太陽コロナ2次元撮像分光観測の実証計画 成影典之(国立天文台)		

11:06	V324a Cherenkov Telescope Array (CTA) 計画：全体報告 (12) 窪秀利 (京都大学)	14:30	V335a X線偏光観測衛星 PRAXyS の進捗 (4) 玉川徹 (理化学研究所)
11:18	V325a CTA 大口径望遠鏡初号機用カメラの試験状況と2号機以降用読み出し回路の開発 野崎誠也 (京都大学)	14:42	V336a X線偏光観測衛星 PRAXyS 搭載 X線望遠鏡用サーマルシールドの開発 三石郁之 (名古屋大学)
	V326c 次世代地上ガンマ線天文台 CTA を想定した超新星残骸の観測シミュレーション 池野祐平 (東海大学)	14:54	V337a PRAXyS 衛星に搭載する光電子追跡型X線偏光計の偏光角再構成法 北口貴雄 (広島大学)
3月16日 (木) 午後・I会場		15:06	V338a PRAXyS 衛星搭載の X線ミラーと偏光計のビームラインによる性能評価 中野俊男 (理化学研究所)
13:30	V327a X線カロリメータ用マイクロ波 SQUID マルチプレクサの開発現状 中島裕貴 (宇宙航空研究開発機構)	15:18	V339b PRAXyS 衛星搭載 X線望遠鏡サーマルシールド用ポリイミドフィルムの特性評価 菅沼亮紀 (名古屋大学)
13:42	V328a 超伝導 TES カロリメータを用いた K 中間子原子 X線の精密分光プロジェクト (3-1) 山田真也 (首都大学東京)	3月17日 (金) 午前・I会場	
13:54	V329b 超伝導 TES カロリメータを用いた K 中間子原子 X線の精密分光プロジェクト (3-2) 早川亮大 (首都大学東京)	09:30	V340a 「ひとみ」(ASTRO-H) /SXS スペア Be窓透過率の評価 星野晶夫 (立教大学)
13:54	V330b TES 型 X線マイクロカロリメータ動作環境の構築と評価 星野晶夫 (立教大学)	09:42	V341a ひとみ (ASTRO-H) 搭載軟X線望遠鏡の Crab 観測による軌道上での性能評価 倉嶋翔 (首都大学東京)
13:54	V331b 将来衛星に向けた積層配線 TES 型 X線マイクロカロリメータの開発 小坂健吾 (首都大学東京)	09:54	V342a 「ひとみ (ASTRO-H)」搭載軟 X線望遠鏡 (SXT) の軌道上での有効面積の評価 中庭望 (首都大学東京)
14:06	V332a MPPC を用いたマトリクス型ガンマ線偏光検出器の低エネルギー帯における高感度化 河合謙太郎 (金沢大学)	10:06	V343a X線天文衛星「ひとみ」搭載軟X線撮像検出器 SXI の軌道上性能と較正の現状 II 村上弘志 (東北学院大学)
14:18	V333a 硬 X線偏光検出器 PoGOLite (PoGO+) 気球実験 :2016 年フライトの結果 高橋弘充 (広島大学)	10:18	V344a X線天文衛星「ひとみ (ASTRO-H)」搭載硬 X線望遠鏡 (HXT) の軌道上での性能評価 II 栗木久光 (愛媛大学)
	V334c 硬 X線偏光検出器 PoGOLite の読み出し回路の改良 (3) 大橋礼恵 (広島大学)		

## W1. コンパクト天体

3月16日(木) 午後・H会場	3月17日(金) 午前・H会場
13:30 W101a 長周期X線パルサー X Persei が $>10^{13}$ G の超強磁場をもつ可能性 牧島一夫(理化学研究所)	09:30 W111b HLLD 法による二温度磁気流体計算コードの開発 大村匠(九州大学)
13:42 W102a 強磁場中性子星の超臨界降着柱の構造 川島朋尚(国立天文台)	09:30 W112b Radiation Driven Winds from a Binary Black Hole 飯島一真(京都大学)
13:54 W103a 中性子星大気中における Z=52 付近の重元素の存在 窪田めぐ(理化学研究所/東京理科大学)	09:30 W113b パルサーの距離情報を用いた銀河系内電離ガス密度分布推定 IV 亀谷収(国立天文台)
14:06 W104a X線天文衛星「ひとみ」と電波の同時観測による「かに星雲」パルサーからの Giant radio pulse の X 線特性 寺田幸功(埼玉大学)	09:42 W114b 「すざく」衛星で観測された GRS1747-312 からの継続時間の長い X 線バースト 岩井將親(宇宙航空研究開発機構)
14:18 W105a 双極子磁場を持つ中性子星への超臨界降着の一般相対論的輻射磁気流体シミュレーション 高橋博之(国立天文台)	09:42 W115b 過去7年間の全天 X 線監視装置 MAXI のデータを用いた突発現象発見のための再解析準備 田中一輝(日本大学)
14:30 W106a LMXB Serpens X-1 における重力赤方偏移した中性子星大気吸収線の探索 米田浩基(宇宙航空研究開発機構/東京大学)	09:54 W116a MAXI J1957+032 の再フレアを含む MAXI が検出した 2016 年度後半の突発現象と MAXI J0636+146 の発見とその正体 根來均(日本大学)
14:42 W107a 単独中性子星 RX J1856.5-3754 からの keV-X 線超過成分の発見(2) 米山友景(大阪大学)	10:06 W117a 全天 X 線観測装置 MAXI によるへび座 X-1 からのスーパーバーストの検出 岩切渉(理化学研究所)
14:54 W108a 降着 X 線パルサーにおける降着物質のバルクモーションのサイクロトロン線への影響 西村治(長野工業高等専門学校)	10:18 W118a ブラックホール候補天体の降着円盤の状態遷移と質量降着率の関係の再検証 増満隆洋(日本大学)
15:06 W109a 差動回転する中性子星の力学平衡解 岡本章宏(琉球大学)	10:30 W119a 銀河系内孤立ブラックホールの光度分布 松本達矢(京都大学)
15:18 W110a 中性子星の X 線偏光に関する体系的な予想 矢田部彰宏(早稲田大学)	10:42 W120a 位置天文衛星 Gaia で発見できるブラックホール連星の数 山口正輝(東京大学)
	10:54 W121a 超巨大ブラックホールの最大質量の起源 稲吉恒平(Columbia University)
	11:06 W122a 多次元超臨界降着による宇宙初期の巨大ブラックホール形成 竹尾英俊(京都大学)

11:18	W123a 回転する超大質量星が重力崩壊した際の観測可能性について 打田晴輝(京都大学)	3月18日(土) 午前・H会場	09:30	W134a LIGO O2におけるMOA望遠鏡を用いた重力波天体の探索 朝倉悠一朗(名古屋大学)
3月17日(金) 午後・H会場			09:42	W135a マグネター磁気圏でのフレア前のエネルギー蓄積 小島康史(広島大学)
13:30	W124a Be/X線連星のノーマルアウトバーストの定量的評価(2) 中島基樹(日本大学)		09:54	W136a ブラックホールへ落下するスパイラルガス雲の運動と放射特性 森山小太郎(京都大学)
13:42	W125a Be星-パルサー連星系 PSR B1259-63からの非近星点付近におけるX線放射 小野雄貴(東京工業大学)		10:06	W137a 系内ブラックホール降着円盤中の乱流粒子加速 寺木悠人(京都大学)
13:54	W126a Tidal tearing of highly misaligned circumstellar disks in X-ray/gamma-ray binaries 岡崎敦男(北海学園大学)		10:18	W138a 超臨界降着流のラインスペクトルの輻射輸送計算 北木孝明(京都大学)
14:06	W127a V404 Cygniのアウトバーストにおけるベイズ統計を用いたタイムラグ解析 木邑真理子(京都大学)		10:30	W139a ブラックホール降着円盤の系からのジェット形成と宇宙線加速 水田晃(理化学研究所)
14:18	W128a NuSTARとSwiftによる超高光度X線源 IC 342 X-1の同時観測 志達めぐみ(理化学研究所)		10:42	W140a 磁場が卓越したBH磁気圏の磁場形状とBH回転エネルギー引き抜き効率 高橋真聡(愛知教育大学)
14:30	W129a 「すざく」を用いたLMXBのスペクトル状態遷移の研究II 小野光(東京大学)		10:54	W141a 相対論的球対称流における輻射場と速度場の同時解 福江純(大阪教育大学)
14:42	W130a X線連星の降着円盤風の熱駆動機構に基づくスペクトルモデルの開発 都丸亮太(東京大学/宇宙航空研究開発機構)		11:06	W142a クォークの2SCカラー超伝導と核子の超流動を考慮した高密度星の冷却計算 野田常雄(久留米工業大学)
14:54	W131a ブラックホール連星 GRS 1739-278のlow/hard stateにおける鉄輝線プロファイルとtruncated discモデルの整合性 藪悟郎(東京大学/宇宙航空研究開発機構)		11:18	W143a コンパクト天体を含む3体系及び4体系の軌道長期安定性の解析 鈴木遼(早稲田大学)
15:06	W132a X線天文衛星「ひとみ」による大質量X線連星 IGR J16318-4848の観測 中嶋大(大阪大学)			
15:18	W133a NuSTARによるSS433の硬X線観測 三村健人(早稲田大学)			

## W2. コンパクト天体

3月15日(水) 午後・F会場	3月16日(木) 午前・F会場
13:00 W201a GRB 160107A: ガンマ線バーストのオンセットはいつか? 坂本貴紀(青山学院大学)	09:30 W213a 古典新星 V1280 Sco のシェル構造解析 内藤博之(なよろ市立天文台)
13:12 W202a ガンマ線バーストのプロンプト放射における親星との相互作用の兆候を探る時間変動解析 吉田和輝(金沢大学)	09:42 W214a 長期可視連続測光観測で明かされたヘリウム激変星 V803 Cen の特異な挙動 磯貝桂介(京都大学)
13:24 W203a 定常解から探る相対論的輻射媒介衝撃波のガンマ線バーストの放射への影響 伊藤裕貴(理化学研究所)	09:54 W215a MAXI 短時間軟 X 線トランジェント MAXI J0758-456 は激変星なのか? 三原建弘(理化学研究所)
13:36 W204a 非一様媒質中におけるワイベル不安定性による磁場増幅過程 富田沙羅(青山学院大学)	10:06 W216a モンテカルロシミュレーションによる超軟 X 線天体のスペクトルモデルの構築 和田師也(東京大学/宇宙航空研究開発機構)
13:48 W205a コンパクト天体におけるニュートリノ輻射輸送計算について 西野裕基(京都大学)	
14:00 W206a 連星中性子星合体におけるニュートリノによる質量放出 藤林翔(京都大学)	
14:12 W207a 連星中性子星合体シミュレーションによる高速電波バーストのプロープ 山崎翔太郎(東京大学)	
14:24 W208a 連星合体モデルに基づいた GRB 発生率 衣川智弥(東京大学)	
14:36 W209a ショートガンマ線バーストの長時間放射成分 木坂将大(青山学院大学)	
W210c Fast Radio Burst(FRB) 探索ソフトウェアの準備状況 寺澤敏夫(理化学研究所)	
14:48 W211b 特異に大きな質量比と長い軌道周期を持つ WZ Sge 型矮新星 若松恭行(京都大学)	
14:48 W212b V694 Mon (MWC560) の 2016 年アウトバースト時における可視分光観測 安藤和子(岡山理科大学)	

## X. 銀河形成

3月17日(金) 午前・F会場		10:54	X13a	赤方偏移3の原始銀河団銀河の性質 利川潤(国立天文台)	
09:30	X01a	4重像レンズQSOにおける暗黒矮小銀河のエビデンス 井上開輝(近畿大学)	11:06	X14a	巨大ブラックホールのガス降着進化: ガスの角運動量と輻射フィードバックの効果 杉村和幸(東北大学)
09:42	X02b	極端に輝線等価幅の大きい近傍矮小銀河の可視光面分光観測 松林和也(国立天文台)	11:18	X15a	Subaru/Suprime-Cam Search of Low-Luminosity Quasars at $z \sim 6$ Masafusa Onoue(Sokendai/NAOJ)
09:42	X03b	高空間分解 Pa $\alpha$ 輝線撮像で探る近傍 clumpy 銀河の星形成活動 北川祐太郎(東京大学)	11:30	X16b	超大質量ブラックホールへの降着タイムスケールが Eddington 比分布に与える影響 白方光(北海道大学)
09:42	X04b	「あかり」で測定した PAH3.3 $\mu\text{m}$ と Br $\alpha$ 輝線フラックスのカタログ作成 村田一心(宇宙航空研究開発機構)	3月17日(金) 午後・F会場		
09:54	X05a	$z=0.1-0.2$ の一般的な星形成銀河における分子ガスの性質 世古明史(京都大学)	13:30	X17a	21-cm 線で探る初代星の痕跡 田中俊行(名古屋大学)
10:06	X06a	宇宙の分子ガス密度の進化2 前田郁弥(京都大学)	13:42	X18a	21cm-LAE cross-correlation による宇宙再電離期の観測可能性の調査 久保田賢志(熊本大学)
10:18	X07a	ガンマ線バースト母銀河における分子ガス探査 廿日出文洋(国立天文台)	13:54	X19a	輻射性フィードバックを考慮した大規模再電離シミュレーションとその応用例 長谷川賢二(名古屋大学)
10:30	X08b	分子ガス観測から制限する $z \sim 1.4$ における星形成銀河のガスの流入率・流出率 世古明史(京都大学)	14:06	X20a	電離光子脱出率と銀河の特徴との関係 角田匠(名古屋大学)
10:30	X09b	重力レンズ銀河団の ALMA データを用いた CO 光度関数の制限 山口裕貴(東京大学)	14:18	X21a	宇宙再電離期のライマン $\alpha$ 輝線銀河シミュレーションとすばる Hyper Suprime-Cam 探査結果の比較 井上昭雄(大阪産業大学)
10:30	X10b	MOIRCS Upgrade Project: A NIR Redshift Survey of the Cluster RXJ1716 at $z=0.8$ 田中壺(国立天文台)	14:30	X22a	すばる Hyper Suprime-Cam SSP 初期データに基づく $z=5.7$ と $6.6$ の Ly $\alpha$ 光度関数 今野彰(東京大学)
	X11c	HSC-HSC: The new cluster candidates with two galaxy population at $0.8 < z < 1.2$ 山元萌黄(総合研究大学院大学)	14:42	X23b	First Demographics of Very Bright Ly $\alpha$ Emitters at $z \sim 6-7$ Uncovered by the Subaru HSC Narrowband Data 澁谷隆俊(東京大学)
10:42	X12a	Fundamental plane of quiescent galaxies in high-density environment at $z=2$ 田中賢幸(国立天文台)			

14:42	X24b	Ly $\alpha$ Emitters with Very Large Ly $\alpha$ Equivalent Widths, EW $_0$ (Ly $\alpha$ ) $\approx$ 200–400 Å, at z $\sim$ 2 橋本拓也(東京大学/リヨン天文台/国立天文台/大阪産業大学)	09:54	X35a	LAE で探る赤方偏移 5 付近の AGN の環境と周囲の銀河へのフィードバック 菊田智史(総合研究大学院大学/国立天文台)
14:42	X25b	Bright End of the UV Luminosity Functions at z=4–7 Derived with the 100deg <sup>2</sup> Data of the Subaru HSC Survey 小野宜昭(東京大学)	10:06	X36a	Galaxy–Dark Matter Halo Connection at z=0–7 Revealed by the Subaru/Hyper Suprime–Cam and Hubble Surveys 播金優一(東京大学)
14:54	X26a	ALMA Demographics: FIR Size and Luminosity Relation at z = 0 – 6 藤本征史(東京大学)	10:18	X37a	あかり北黄極サーベイと HSC データを用いた赤外線銀河の活動銀河核活動度 大井渚(関西学院大学)
15:06	X27b	Completeness を補正した z $\sim$ 6–7 でのサイズ – 光度関係と光度関数への影響 川俣良太(東京大学)	10:30	X38a	Cosmic star formation history revealed by AKARI and Hyper Suprime Cam Tomotsugu Goto(National Tsing Hua University)
15:06	X28b	z $\sim$ 1 のフィールドにおける早期型銀河の等面輝度形状について 満田和真(東京大学)	10:42	X39a	SPICA による銀河進化研究の検討状況 長尾透(愛媛大学)
15:06	X29b	初代超新星と超金属欠乏星の組成分布 小宮悠(東京大学)	10:54	X40a	低金属量下における初期質量関数の導出 I: Sh 2–127 安井千香子(国立天文台)
15:18	X30a	[O III] 輝線銀河で探る最盛期以前の星形成活動性 鈴木智子(総合研究大学院大学/国立天文台)	11:06	X41a	Integral Approach による、Density Independent SPH 法と Godunov SPH 法の改良 藤原隆寛(筑波大学)
15:30	X31a	大規模探査スペクトルで探る星形成銀河アウトフローの赤方偏移進化 菅原悠馬(東京大学)	11:18	X42a	ダストのサイズ分布を考慮した宇宙論的ダスト形成シミュレーション 青山尚平(大阪大学)
	X32c	光電離モデルを用いた single/double 成分 C IV 吸収体の物理状態の解明 三澤透(信州大学)		X43c	宇宙赤外線背景放射への黄道光の寄与 佐野圭(東京大学)
3 月 18 日 (土) 午前・F 会場					
09:30	X33a	Angular momentum evolution of disk galaxies at high redshift 岡村拓(東京大学)			
09:42	X34a	大規模近赤外分光サンプルで明らかにする銀河環境とガス金属量との関係 矢部清人(東京大学)			

## Y. 天文教育・その他

3月16日(木) 午前・F会場			
10:18	Y01a	超新星符号の付与方式 — TNS のこの1年 山岡均(国立天文台)	Y13c 天体の日周運動と年周運動の理解を促進する教材の開発(4) — 理解度に影響を及ぼす要因 — 濤崎智佳(上越教育大学)
10:30	Y02b	日本中国の文献から探る超新星の明るさの変化 斉藤秀樹(長野市立博物館)	11:06 Y14b 全天モニタ画像に対する座標較正の自動化 川野元聡(国立天文台)
10:30	Y03b	広範な協力で行われた「ひとみ」衛星の地上光学観測とその成果 飯塚亮(宇宙航空研究開発機構)	Y15c 全天モニタ画像座標較正 Web サービスの構築 小澤友彦(紀美野町文化センター)
10:30	Y04b	「長野県は宇宙県」の取り組み 衣笠健三(国立天文台)	Y16c 多地点流星電波観測を教材としたアクティブ・ラーニング的事例 吉田英人(東京大学)
10:42	Y05b	日本の天文普及活動をどう海外に伝えるか? — 国際会議 CAP2018 @福岡市に向けて — 縣秀彦(国立天文台)	11:06 Y17b 夜空の明るさ測定における眼視測定の有効性検証 柴山万優子(星空公団)
10:42	Y06b	Planetary Defense Conference (PDC) の国内開催に向けて 奥村真一郎(日本スペースガード協会)	11:18 Y18b Spectroscopy Lab in an Activity-Based Astronomy Course Akimi Fujita(Shinshu University)
10:42	Y07b	バーチャルリアリティ版 Mitaka の体験企画 加藤恒彦(国立天文台)	3月16日(木) 午後・F会場
10:54	Y08b	ExoKyoto を用いたアマチュアも含めた系外惑星探査システム 佐々木貴教(京都大学)	13:30 Y19a 擬ニュートンポテンシャルで相対論的現象を模倣する方法 竹田奈央(大阪教育大学)
10:54	Y09b	教員養成学部における太陽観測実習の授業実践とその評価(1) 大朝由美子(埼玉大学)	13:42 Y20a Twitter 上における金星探査機「あかつき」に関する言説の分析 矢部あずさ(宇宙航空研究開発機構)
10:54	Y10b	教員養成学部における太陽観測実習の授業実践とその評価(2) 矢治健太郎(国立天文台)	13:54 Y21a チリにおける天体観望会の実施(1) 準備状況 阪本成一(国立天文台)
	Y11c	自作分光器による Ca II K 吸収線高次スペクトルを用いた太陽彩層の立体構造 坂江隆志(埼玉県立浦和西高等学校)	14:06 Y22a 研究施設利用イベントでの外部キュレーターの導入事例 玉澤春史(京都大学)
11:06	Y12b	インターネット望遠鏡を利用した月の観測・解析の教材開発に向けて 大羽徹(名古屋大学教育学部附属・高等学校)	14:18 Y23a 総合科学としての天文学を大学でどう教えるか? — 国際ガイドラインの作成に向けて — 縣秀彦(国立天文台)
			14:30 Y24a 天文学研究 PBL 型授業におけるルーブリックの開発と評価 田中幹人(東北大学)

14:42	Y25a	日本の大学における天文学シラバス 調査(1): 教養課程 鷹野重之(九州産業大学)	
14:54	Y26a	データサイエンス教育における天文 データの活用 石橋史朗(会津大学)	
15:06	Y27a	太陽教育コンテンツ Solar Projection Mapping を用いた教育活動報告 萩野正興(国立天文台)	
15:18	Y28a	接眼分光器を用いた天体物理学の教育 橋本修(ぐんま天文台)	

2017年2月28日発行

年会実行委員会

委員長	佐藤文衛	(東京工業大学)
委員	石川遼子	(国立天文台)
	酒井剛	(電気通信大学)
	左近樹	(東京大学)
	鈴木知治	(中部大学)
	鈴木竜二	(国立天文台)
	寺田幸功	(埼玉大学)
	永井洋	(国立天文台)
	諸隈智貴	(東京大学)
	中道晶香	(京都産業大学) 保育室担当

年会開催地理事

町田正博 (九州大学)